



IBM Netfinity

システム管理 **PCI** アダプター
ソフトウェア・ユーザーズ・ガイド



IBM Netfinity

システム管理 **PCI** アダプター
ソフトウェア・ユーザーズ・ガイド

重要

本書をお読みになり、本書がサポートする製品をご使用になる前に、必ず58ページの付録A、『特記事項および商標』をお読みください。

第 1 版 (1999 年 4 月)

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミング、およびサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、IBMがこのようなIBM製品、プログラミング、およびサービスを、必ずしも日本で発表する意図であることを示すものではありません。

原 典： 10L9285
IBM Netfinity
Advanced Systems Management PCI Adapter
Software User's Guide
発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社
担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1999.4

©Copyright International Business Machines Corporation 1999. All rights reserved.

Translation: ©Copyright IBM Japan 1999

目次

システム管理	1
システム管理の使用	2
システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用	2
システム管理の始動	3
シリアル、TCP/IP、またはシステム管理インターコネクトを使用したリモート管理	4
構成情報	6
構成の設定	6
「システム識別」グループ	7
「ダイヤルインの設定」グループ	8
「システム管理プロセッサ・クロック」グループ	9
POST タイムアウト	10
ローダー・タイムアウト	10
O/S タイムアウト	11
電源オフ遅延	12
その他の構成設定機能	12
モデム設定	13
「ポート構成」グループ	13
「ダイヤル設定」グループ	16
初期化文字列に関するガイドライン	17
ダイヤルアウト項目の設定の変更	18
ネットワーク設定	18
リモート・アラート設定	20
「リモート・アラート設定情報」グループ	21
「アラート使用可能」グループ	22
SNMP 設定	25
イベント・ログ	26
稼働パラメーター	27
システム電源制御	28
リモート POST コンソール	30
Netfinity システム管理 PCI アダプターのマイクロコードの更新	31
ダイナミック接続マネージャー	33
モデムの構成	34
リモート・アクセスの使用可能化	35
ダイナミック接続マネージャー項目の作成	36
Netfinity マネージャー接続項目の作成	37
システム管理プロセッサ接続項目の作成	38
リモート・システムへのアクセス (シリアル・リンクと TCP/IP リンク)	39
リモート・システムへのアクセス (システム管理インターコネクト・リンク)	40
システム管理インターコネクト・パススルー管理	41
初期化文字列に関するガイドライン	42
Netfinity マネージャーを使わない Netfinity システム管理 PCI アダプターへのアクセス	43
Netfinity システム管理 PCI アダプターへの直接接続の確立	44

端末プログラムによる接続	44
TELNET セッションによる接続	45
Web ブラウザーによる接続	47
Netfinity システム管理 PCI アダプターのメニュー	48
「System Power」メニューの選択項目	49
「Boot」メニューの選択項目	51
「Remote SP Access」メニューの選択項目	53
リモート・ビデオ・モードによる POST のモニターとアクセス	54
Netfinity マネージャーを使わない Netfinity システム管理 PCI アダプターの構成	57
付録A. 特記事項および商標	58
特記事項	58
商標	58
索引	59

システム管理

このセクションでは、Netfinity マネージャーの「システム管理」の導入、開始、使用の方法について説明します。このセクションは、Netfinity マネージャーまたは Netfinity クライアントサービスを使って、「システム管理」を導入し、使用する方々を対象にしています。

このオプションには、Netfinity マネージャーの完全なライセンス・コピーが含まれています。Netfinity マネージャーのこのバージョンは、ServerGuide のコピーに含まれていた Netfinity マネージャーのバージョンに置き換わるものです。Netfinity マネージャーには、Netfinity システム管理 PCI アダプターをサポートするように設計された更新ソフトウェアが組み込まれています。ご使用のサーバーに Netfinity マネージャーの旧バージョンがインストールされている場合は、旧バージョンをアンインストールした上で、このオプションに含まれている Netfinity マネージャーのバージョンをインストールしてください。

システム管理サービスは、Netfinity マネージャーを導入すると導入され、Netfinity システム管理 PCI アダプターを使って利用できる非常に幅広い機能を提供します。Netfinity マネージャーを導入しないと、Netfinity システム管理 PCI アダプターの最新機能の多くは利用できないことになります。Netfinity マネージャーのインストールの仕方は、サーバー・ライブラリーの「*ServerGuide* と Netfinity マネージャー」の項を参照してください。

このセクションでは、Netfinity マネージャーを使わない場合の Netfinity システム管理 PCI アダプターの使用方法についても説明します。

重要!

- システム管理サービスは、Netfinity マネージャーを導入すると導入され、Netfinity システム管理 PCI アダプターで利用できる非常に幅広い機能を提供します。Netfinity マネージャーは、このサーバーに含まれています。Netfinity マネージャーを導入しないと、Netfinity システム管理 PCI アダプターの最新機能の多くを利用できません。
- サーバー・ライブラリーのこのセクションでは、Netfinity システム管理プロセッサ (Netfinity 5000、Netfinity 5500、Netfinity 5500 M10 に搭載) も備えたサーバーに取り付けられている Netfinity システム管理 PCI アダプターで、システム管理サービスを使用する方法を説明します。このサービスは、他のシステム管理ハードウェアを管理するのにも使用できます。たとえば、次のものに適用できます。
 - PC サーバー・システム管理アダプター・オプション
 - Netfinity システム管理プロセッサのみ (Netfinity 5000、Netfinity 5500、Netfinity 5500 M10 に搭載)
 - Netfinity システム管理 PCI アダプターのみ (Netfinity 7000 M10 に搭載)

システム管理サービスで利用できる機能は、管理するシステム管理ハードウェアによって異なります。システム管理プロセッサを備えたサーバーに導入された場合、Netfinity システム管理 PCI アダプター以外のシステム管理ハードウェアでのシステム管理サービスの使用法については、オプションに付属の説明書またはサーバーに付属のサーバー・ライブラリーを参照してください。

システム管理の使用

この章では、Netfinity マネージャーのシステム管理サービスを使用して、構成、モデム、ネットワーク、および自動ダイヤルアウトの設定を変更する方法を説明します。

システム管理サービスを使用して、システム管理イベント(POST、ローダー、オペレーティング・システム・タイムアウト、クリティカル温度、電圧、安全保護アラートなど)を構成できます。このようなイベントが発生した場合、5通りの方法の1つで Netfinity アラートを自動的に転送するようにシステム管理サービスを構成できます。

- モデムを使用して、アラートを別の Netfinity システムに転送する
- アラートを標準の数字ページャーに転送する
- アラートを英数字ページャーに転送する (日本国内では利用できません)
- TCP/IP ネットワーク接続を使用して、アラートを Netfinity マネージャー・システムに転送する (Netfinity システム管理 PCI アダプターで「システム管理」を使用しているときだけ利用可能)
- アラートを SNMP フォーマットで SNMP マネージャーに転送する (Netfinity システム管理 PCI アダプターで「システム管理」を使用しているときだけ利用可能)

このサービスを使用すると、ご使用のシステムのモデムを使って、リモート・システムのシステム管理 PCI アダプターやシステム管理プロセッサにダイヤルアウトし、直接アクセスして管理できるようになります。リモート・システムに Netfinity システム管理 PCI アダプターが取り付けられ、アダプターが伝送制御プロトコル / インターネット・プロトコル (TCP/IP) ネットワークに接続されている場合は、ダイナミック接続マネージャー (Netfinity マネージャーとシステム管理サービスを導入すると導入されます) を使用して、ご使用の Netfinity マネージャー・システムから、Netfinity システム管理 PCI アダプターとの TCP/IP リンクをオープンできます。さらに、Netfinity システム管理 PCI アダプターまたはシステム管理プロセッサが、システム管理インターコネクト・ネットワークに接続されている場合、あるいは、ご使用のシステムのモデムや TCP/IP 接続を介して接続しているリモート Netfinity システム管理 PCI アダプターまたはシステム管理プロセッサがシステム管理インターコネクト・ネットワークに接続されている場合、この接続を使って、システム管理インターコネクト・ネットワークに接続された他のシステムのシステム管理 PCI アダプターまたはシステム管理プロセッサにアクセスし、それを管理することができます。詳しくは、33ページの『ダイナミック接続マネージャー』を参照してください。

また「システム管理」を使用すると、システム管理アダプターまたはプロセッサを搭載したリモート・システムの電源オン自己診断テスト (POST) で生成されるすべてのテキスト・データを、リモートでモニター、記録、再生することもできます。リモート・システムの POST をモニターしている間に、キーボードでキー・コマンドを入力すると、リモート・システムに中継されます。

システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用

システム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方が導入されているシステムでは、アダプターは、イーサネットまたはトークンリング・ネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) として働きます。この構成では、システム管理プロセッサが、アラート、タイムアウト、その他のシステム管理情報をすべて生成します。このデータは、プロセッサとアダプター間のシステム管理インターコネクトを使用して、システム管理 PCI アダプターに伝達されます。アダプターはこの情報を、イーサネットやトークンリン

グ・ネットワーク上の他のシステムに転送します (または、モデムを使って、このデータをシリアル接続を介して転送します)。

システム管理 PCI アダプターとシステム管理プロセッサの両方を備えたシステムを構成するときは、システム管理の設定 (リモート・アラート設定、タイムアウト設定など) は、すべてシステム管理プロセッサ上で構成する必要があります。ただし、TCP/IP を使ってシステム管理 PCI アダプターと通信する前に、最初にアダプターとのシリアル接続またはシステム管理インターコネクトを確立し、ネットワーク設定を構成しておく必要があります。シリアル接続またはシステム管理インターコネクトの確立については、33ページの『ダイナミック接続マネージャー』を参照してください。ネットワーク設定の構成については、18ページの『ネットワーク設定』を参照してください。

システム管理の始動

システム管理サービスを開始するには、「Netfinity サービス・マネージャー」ウィンドウの「システム管理」アイコンをダブルクリックします。次に、「システム管理」ウィンドウ (図 1) の選択項目をダブルクリックして、必要な機能や構成情報にアクセスします。

注: これで、ご使用のローカル・システム上の「システム管理」が起動され、ご使用のシステムに導入されたシステム管理 PCI アダプターとシステム管理プロセッサについてだけ、構成や管理を行えるようになります。リモート・システム上のシステム管理 PCI アダプターやプロセッサへのアクセス、構成、管理を可能にするためには、最初にダイナミック接続マネージャーを使って、リモート・システムとの接続を確立する必要があります。ダイナミック接続マネージャーについての詳しい説明は、33ページの『ダイナミック接続マネージャー』を参照してください。



図 1. システム管理サービス

- 「構成情報」を選択すると、ランダム・アクセス・メモリー (RAM) マイクロコード、読み取り専用メモリー (ROM) マイクロコード、デバイス・ドライバーの情報など、Netfinity システム管理 PCI アダプターに関する詳細情報を表示できます。構成情報については、6ページの『構成情報』を参照してください。
- 「構成の設定」を選択すると、Netfinity システム管理 PCI アダプターのさまざまな機能を構成できます。これらの機能には、システム識別データ、ダイヤルイン安全保護設

定、システム管理プロセッサ・クロックによって報告される時刻と日付、タイムアウト値と遅延値、モデム設定などが含まれます。構成の設定については、6ページの『構成の設定』を参照してください。

- 「リモート・アラート設定」を選択すると、「システム管理」アラート転送機能を構成できます。リモート・アラートの設定については、20ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。
- 「イベント・ログ」を選択すると、Netfinity システム管理 PCI アダプターのイベント・ログの内容を表示できます。リモート・アクセスの試行やダイヤルアウト・イベントに関する情報は、すべてイベント・ログに記録されています。イベント・ログについては、26ページの『イベント・ログ』を参照してください。
- 「稼働パラメーター」を選択すると、Netfinity システム管理 PCI アダプターによってモニターされる種々のシステム・コンポーネントの現行値や状況を表示できます。稼働パラメーターについては、27ページの『稼働パラメーター』を参照してください。
- 「システム電源制御」を選択すると、システムの電源オフ、システムの再始動、またはシステムの電源オンを Netfinity システム管理 PCI アダプターに指示できます。システム電源制御については、28ページの『システム電源制御』を参照してください。
- 「リモート POST コンソール」を選択すると、Netfinity システム管理 PCI アダプターを備えたリモート・システム上で POST 時に生成されるテキスト出力を、リモートからモニター、記録、再生できます。リモート POST の使用については、30ページの『リモート POST コンソール』を参照してください。
- Netfinity システム管理 PCI アダプターのマイクロコードを更新するときは、「オプション」プルダウン・メニューから「マイクロコードの更新...」を選択し、次に「システム管理」を選択します。マイクロコードの更新については、31ページの『Netfinity システム管理 PCI アダプターのマイクロコードの更新』を参照してください。

シリアル、TCP/IP、またはシステム管理インターコネクトを使用したリモート管理

ご使用のシステムのモデム、TCP/IP、またはシステム管理インターコネクト・ネットワークを使って、リモート・システム上のシステム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスし、それを管理したい場合は、ダイナミック接続マネージャーを使用して、次のどれかを行う必要があります。

- リモート・システムとのシリアル接続を確立する。
- ダイナミック接続マネージャーを使用して、リモート・サーバーに導入された Netfinity システム管理 PCI アダプターとの TCP/IP またはシステム管理インターコネクト・リンクを確立する。
- ダイナミック接続マネージャーを使用して、リモート・サーバーに導入されたシステム管理プロセッサとのシステム管理インターコネクト・リンクを確立する。

その後でシステム管理サービスを開始します。ダイナミック接続マネージャーを使用すると、別のシステムへのヌル・モデム接続を確立することもできます。また、ダイナミック接続マネージャーを使用すると、リモート Netfinity システム管理 PCI アダプターとのシリアル接続または TCP/IP 接続を確立し、その Netfinity システム管理 PCI アダプターを“パススルー”して、システム管理インターコネクトを使ってリモート Netfinity システム管理 PCI アダプターに接続している任意のシステム管理アダプターやプロセッサにアクセスし、そ

れを管理することも可能になります。ダイナミック接続マネージャーについては、33ページの『ダイナミック接続マネージャー』を参照してください。

注:

1. 「ダイナミック接続」項目を作成するとき、またはシステム管理インターコネクトを確立するときは、必ずその前に「ダイナミック接続マネージャー」ウィンドウの「システム管理プロセッサ」チェックボックスに、チェック・マークを付けてください。このチェックボックスにチェック・マークが付いていないと、リモート Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続は失敗します。ヌル・モデム接続や TCP/IP リンク項目を作成するときは、このボックスにチェック・マークを付ける必要はありません。
2. ネットワーク接続を介する TCP/IP リンクは、システム管理およびダイナミック接続マネージャーを使用して、ネットワークに接続された Netfinity システム管理 PCI アダプターに直接アクセスするときにはしか利用できません。
3. システム管理インターコネクトは、次の場合にしか使えません。
 - システム管理およびダイナミック接続マネージャーを使用して、ご使用のシステムに導入された Netfinity システム管理 PCI アダプターに直接アクセスする場合 (Netfinity 7000 M10 のみ)。
 - システム管理およびダイナミック接続マネージャーを使用して、ご使用のシステム管理アダプターまたはプロセッサが接続しているのと同じシステム管理インターコネクトに接続されたシステム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスする場合。

または

- 最初に、システム管理インターコネクト・ネットワーク上の他のシステム管理アダプターまたはプロセッサに接続されたリモート Netfinity システム管理 PCI アダプターとのシリアル接続、ヌル・モデム接続、または TCP/IP リンクを確立してある場合。

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

4. ダイナミック接続マネージャーを使用して、システム管理サービスによって使われる「ダイナミック接続」項目を構成するときは、リモート・システム上の Netfinity マネージャーにアクセスするためのユーザー ID とパスワードではなく、必ず、リモート・システムのシステム管理プロセッサまたはアダプターにアクセスするためのログイン ID とパスワードを入力してください。
5. ダイナミック接続マネージャーを使用して、リモート・システムのシステム管理プロセッサまたはアダプターとのヌル・モデム接続を確立するときは、必ず、「ポート・ポーレート」値 (ダイナミック接続マネージャーのサービスを使って構成) を、ターゲット・システムの「ポーレート」値 (システム管理プロセッサを使って構成) に一致するように設定してください。「ポート・ポーレート」値と「ポーレート」値が一致していないと、接続は失敗します。

6. モデムを通して接続しているときに、シリアル接続が切断された場合、ダイナミック接続マネージャーはキャリアの損失を検出し、ウィンドウに「キャリアが検出されず、ダイヤルが失敗しました」を表示します。その後、ダイナミック接続マネージャーは、自動的にシリアル接続の再確立を試みます。

構成情報

「構成情報」ウィンドウ (図2)には、RAM マイクロコード、ROM マイクロコード、デバイス・ドライバ情報など、Netfinity システム管理 PCI アダプターに関する詳細な情報が入っています。

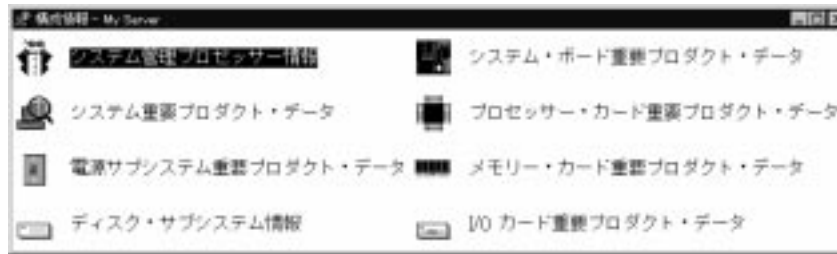


図 2. 「構成情報」ウィンドウ

構成の設定

「構成の設定」ウィンドウ (7ページの図3 を参照) の選択項目を使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターのさまざまな機能を構成します。これらの機能には、システム識別データ、ダイヤルイン安全保護設定、システム管理プロセッサ・クロックによって報告される時刻と日付、タイムアウト値と遅延値、モデム設定、ネットワーク設定などが含まれます。

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

このウィンドウには、次のものが含まれています。

- 「システム識別」グループ
- 「ダイヤルインの設定」グループ
- 「システム管理プロセッサ・クロック」グループ
- POST タイムアウト、ローダー・タイムアウト、O/S タイムアウト、電源オフ遅延の各フィールド

このウィンドウには「モデム」ボタンと「ネットワーク」ボタンもあります。「モデム」を選択すると「モデム設定」ウィンドウ (13ページの『モデム設定』を参照)が開きます。「ネ

「ネットワーク」を選択すると「ネットワーク設定」ウィンドウ(18ページの『ネットワーク設定』を参照)が開きます。

注: ネットワーク設定の構成は、Netfinity システム管理 PCI アダプター上でのみサポートされます。Netfinity システム管理 PCI アダプターへのアクセスや管理に「システム管理」を使っていないときは、「ネットワーク」ボタンは利用不能です。

「システム識別」グループ

「システム識別」グループには、Netfinity システム管理 PCI アダプターを備えたシステムを識別するのに役立つ 2 つのフィールドがあります。

フィールド	説明
名前	システムの名前、システム・ユーザーの名前、または連絡先の名前を指定するのに使用できます。この情報は、転送される Netfinity アラート、SNMP アラート、および英数字ページャー (日本国内では利用できません) に送信されるページに含められるので、アラートを生成したシステムを識別するのに役立ちます。
番号	特定の通し番号や識別番号を持っているシステムを識別したり、システムにダイヤルするのに使う電話番号を記録したり、連絡先の電話番号を提供するのに使用できます。この情報は、転送される Netfinity アラート、SNMP アラート、および数字ページャーに送信されるページに含められるので、アラートを生成したシステムを識別するのに役立ちます。



図 3. 「構成の設定」ウィンドウ

これらのフィールドで提供される情報を変更するには、次のようにします。

1. 「名前」または「番号」フィールドに、記録したいシステム情報を入力します。
2. 「適用」を選択して、この情報を保管します。

「ダイヤルインの設定」グループ

「ダイヤルインの設定」グループの選択項目を使用すると、ダイヤルイン・サポートを使用可能または使用不可にできます。これを使って、ユーザーが Netfinity システム管理 PCI アダプターにダイヤルインし、アクセスできるようにします。「ダイヤルインの設定」グループには、次の項目が含まれています。

項目	説明
構成するユーザープロフィール	スピン・ボタンを使用して、構成したいユーザー・プロフィールを選択します。このサービスは、IBM Netfinity 7000 M10 システムでは最大 12 までの個別プロフィールをサポートします。
ログイン ID	このフィールドには、リモート・ユーザーが使用するログイン ID を入力します。最大 12 までのログイン ID を構成できます(このフィールドは、大文字小文字の区別をします)。 注: Netfinity システム管理 PCI アダプターにリモート・アクセスするときは、ログイン ID の指定は必須です。
パスワードの設定	リモート・ユーザーが Netfinity システム管理 PCI アダプターにアクセスするには、ログイン ID と共にパスワードを指定することが必要です。ログイン ID を入力した後で「パスワードの設定」をクリックすると、「パスワードの設定」ウィンドウが開きます(「パスワードの設定」ウィンドウのフィールドは、大文字小文字の区別をします)。 注: 5 ~ 8 文字の長さで、少なくとも英字 1 字と英字以外 (数字またはその他) の 1 字を含む必要があります。
最終ログイン	リモート・ユーザーが前回に正常にログインした日付と時刻が表示されます。
読み取り専用アクセス	「読み取り専用アクセス」チェックボックスにチェック・マークが付いている場合、プロフィールが選択されているユーザーは、アクセスが許可されても、Netfinity システム管理 PCI アダプターの設定値を変更することはできません。ただし、パスワードを除いて、現在構成されている設定や値はすべて見ることができます。
ダイヤル・バック使用可能	「ダイヤル・バック使用可能」チェックボックスにチェック・マークが付いている場合、プロフィールが選択されているユーザーがログインすると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはただちに接続を自動的に終了し、「番号」フィールドに入力された電話番号を使ってダイヤルアウトし、リモート・システムとの接続を試みます。 注: これは、モデムを使って別のモデムとのシリアル接続を確立している場合にだけ適用されます。この設定は、パススルー接続に対しては無効です。

必要な場合は、「モデム」を選択して「モデム設定」ウィンドウにアクセスしてください (13 ページの『モデム設定』を参照)。「モデム設定」ウィンドウでは、モデムの設定やダイヤルの設定を指定できます。

リモート・ユーザーの新しいログイン ID を作成するときは、次のようにします。

1. 「ログイン ID」フィールドに、リモート・ユーザーが使用する ID を入力します。この ID は、最大 8 文字までの長さです。
2. リモート・ユーザーは、Netfinity システム管理 PCI アダプターにアクセスするためには、ログイン ID とともにパスワードも指定する必要があります。「パスワードの設定」を選択すると「パスワードの設定」ウィンドウが開きます。
「パスワードの設定」ウィンドウで、次のようにします。

- a. 「新規パスワードの入力」フィールドに、パスワードを入力します。

注: 5 ~ 8 文字の長さで、少なくとも英字 1 字と英字以外 (数字またはその他) の 1 字を含む必要があります。

- b. 「新規パスワードの再入力」フィールドに、「新規パスワードの入力」フィールドで入力したのと同じパスワードを入力します。
- c. 「了解」をクリックして、このパスワードを保管し、「パスワードの設定」ウィンドウを閉じます。

3. 「適用」をクリックして、新規ユーザー ID を保管します。

現在選択されているログイン ID を削除するときは、次のようにします。

1. 「構成するユーザープロファイル」フィールドの横にあるスピン・ボタンを使って、前に構成したユーザー・プロファイルを選択します。
2. 「ログイン ID」フィールドをクリックします。
3. 「Backspace」または「Delete」キーを使用して、現在表示されているログイン ID を削除します。
4. 「適用」をクリックして、ユーザー ID を削除します。

重要

安全保護のため、システム管理サービスを使用して、ユーザー名とパスワードを変更してください。

「システム管理プロセッサ・クロック」グループ

「システム管理プロセッサ・クロック」グループの選択項目を使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターによって報告される時刻と日付を設定します。

注: システム管理プロセッサ・クロックは、システム・クロックから分離、独立していません。この設定を変更しても、システム・クロックには影響を与えません。

現在設定されている時刻や日付を変更するには、次のようにします。

1. 「クロックの設定」チェックボックスにチェック・マークが付いていることを確認します。システム管理サービスを使って、現在保管されている時刻と日付の値を変更できるようにするためには、このチェックボックスにチェック・マークを付けることが必要です。
2. 各フィールドの横にあるスピン・ボタンを使って、時刻や日付を変更します。
 - 「時刻」フィールドは、左から右に、時、分、秒を表します。
 - 「日付」フィールドは、左から右に、月、日、年を表します。
3. 「適用」をクリックして、新しい時刻と日付を保管します。

POST タイムアウト

「POST タイムアウト」フィールドは、POST タイムアウト・イベントを生成する前に、Netfinity システム管理 PCI アダプターがシステムの電源オン自己診断テスト (POST) の完了を待つ時間の長さを秒数で表示します。POST の完了までに、構成された時間より長くかかり、「POST タイムアウト」チェックボックス（「リモート・アラート設定」ウィンドウの「アラート使用可能」グループにある）にチェック・マークが付いている場合、Netfinity システム管理 PCI アダプターは自動的に一度、システムを再始動し、使用可能にされているリモート・アラート項目のすべてにアラートの転送を試みます。システムが再始動した後は、「POST タイムアウト」は、システムが正常に遮断され、再始動されるまで、自動的に使用不可になります。

注: このチェックボックスにチェック・マークが付いていないときに POST タイムアウトが検出された場合、システムは再始動しますが、アラートは転送されません。

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ（または、共用モデム・リソース）としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

POST タイムアウト値を設定するには、「POST タイムアウト」フィールドの横のスピンのボタンを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターが POST の完了を待つ時間の長さを秒数で指定します。次に「適用」をクリックして、この値を保管します。設定できる最大 POST タイムアウト値は 7650 秒です。設定できる最小 POST タイムアウト値は 210 秒です。POST タイムアウトの検出を使用不可にするときは、この値を 0 に設定します。

「リモート・アラート設定」ウィンドウについては、20ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。

ローダー・タイムアウト

「ローダー・タイムアウト」フィールドは、ローダー・タイムアウト・イベントを生成する前に、Netfinity システム管理 PCI アダプターがシステムのロード・プロセスの完了を待つ時間の長さを秒数で表示します。ローダー・タイムアウトは、POST の完了からオペレーティング・システム (O/S) の始動までの間に経過した時間の長さを測定します。その完了までに、構成された時間より長くかかり、「ローダー・タイムアウト」チェックボックス（「リモート・アラート設定」ウィンドウの「アラート使用可能」グループにある）にチェック・マークが付いている場合、Netfinity システム管理 PCI アダプターは自動的に一度、システムを再始動し、使用可能にされているリモート・アラート項目のすべてにアラートの転送を試みます。システムが再始動した後は、「ローダー・タイムアウト」は、システムが正常に遮断され、再始動されるまで、自動的に使用不可になります。

注: このチェックボックスにチェック・マークが付いていないときにローダー・タイムアウトが検出された場合、システムは再始動しますが、アラートは転送されません。

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

ローダー・タイムアウト値を設定するには、「ローダー・タイムアウト」フィールドの横のスピン・ボタンを使用して、タイムアウト・イベントを生成する前に、Netfinity システム管理 PCI アダプターが POST の完了から O/S の始動までの間に待つ時間の長さを秒数で指定します。次に「適用」をクリックして、この値を保管します。設定できる最大ローダー・タイムアウト値は 7650 秒です。ローダー・タイムアウトの検出を使用不可にするときは、この値を 0 に設定します。

「リモート・アラート設定」ウィンドウについては、20ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。

O/S タイムアウト

Netfinity システム管理 PCI アダプターから O/S に定期的に信号を送って、O/S が正しく稼働していることを確認します。O/S タイムアウト・イベントは、O/S がこの信号に 6 秒以内に応答しないときに発生します。「O/S タイムアウト」フィールドは、O/S タイムアウト検査の間隔で、Netfinity システム管理 PCI アダプターが待つ時間の長さを秒数で表示します。O/S が 6 秒以内に応答しない場合、Netfinity システム管理 PCI アダプターはシステムの再始動を試みます。「O/S タイムアウト」チェックボックス(「リモート・アラート設定」ウィンドウの「アラート使用可能」グループにある)にチェック・マークが付いているときは、Netfinity システム管理 PCI アダプターは自動的に一度、システムを再始動し、使用可能にされているリモート・アラート項目のすべてにアラートの転送を試みます。

注: このチェックボックスにチェック・マークが付いていないときに O/S タイムアウトが検出された場合、システムは再始動しますが、アラートは転送されません。

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

O/S タイムアウト値を設定するには、「O/S タイムアウト」フィールドの横のスピン・ボタンを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターが O/S タイムアウト検査の間隔として待つ時間の長さを秒数で指定します。次に「適用」をクリックして、この値を保管します。設定できる最大 O/S タイムアウト値は 255 秒です。O/S タイムアウトの検出を使用不可にするときは、この値を 0 に設定します。

「リモート・アラート設定」ウィンドウについては、20ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。

電源オフ遅延

「電源オフ遅延」フィールドは、システムの電源をオフにする前に、Netfinity システム管理 PCI アダプターがオペレーティング・システムの遮断プロセスが完了するのを待つ時間の長さを秒数で指定します。

Netfinity システム管理 PCI アダプターが電源オフ手順を開始し、「電源オフ」チェックボックス（「リモート・アラート設定」ウィンドウの「アラート使用可能」グループにある）にチェック・マークが付いている場合、Netfinity システム管理 PCI アダプターは自動的に、使用可能にされているリモート・アラート項目のすべてにアラートの転送を試みます。このアラートが転送されるのは、システムの電源がオフになり、「電源オフ遅延」時間が経過した後です。

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ（または、共用モデム・リソース）としての働きだけです。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

電源オフ遅延の値を設定するには、「電源オフ遅延」フィールドの横のスピン・ボタンを使用して、システムの電源をオフにする前に、Netfinity システム管理 PCI アダプターがオペレーティング・システムの遮断の完了を待つ時間の長さを秒数で指定します。次に「適用」をクリックして、この値を保管します。設定できる電源オフ遅延の最大値は 9999 秒です。電源オフ遅延を使用不可にするときは、この値を 0 に設定します。

「リモート・アラート設定」ウィンドウについては、20ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。

その他の構成設定機能

「構成の設定」ウィンドウには、その他に 3 つのボタンがあります。

ボタン	説明
最新表示	「最新表示」は、「構成の設定」ウィンドウに表示されるすべてのデータ（日付、時刻、最終ログインを含む）を更新するときに選択します。
リセット	「リセット」は、すべての「システム管理」設定値(構成の設定、ダイヤルアウト設定、拡張ダイヤルアウト設定を含む)をデフォルト値に戻すときに選択します。 重要: 前に構成されていた「システム管理」設定値は、すべて永久的に失われてしまいます。
キャンセル	「キャンセル」は、変更を保管しないでウィンドウを閉じるときに選択します。

モデム設定

「モデム設定」ウィンドウ (図4) は、モデムの設定値やダイヤル呼び出しの設定値を指定するのに使用します。このウィンドウを開くには、「構成の設定」ウィンドウで「モデム」をダブルクリックします (6ページの『構成の設定』を参照)。

モデム設定 - My Server

ポート構成

構成するポート : 2 ボーレート : 19200

初期設定ストリング : ATZ

接続終了ストリング : ATH0

選択済みポート(P) 拡張(V)

ダイヤル設定

ダイヤルイン使用可能(D) 始動中のポート所有

ダイヤルアウト再試行限界値 : 5 ダイヤルアウト間隔秒数 : 15

ダイヤルアウト再試行遅延 : 30 ダイヤルイン遅延 (分) : 2

適用(A) 最新表示(R) キャンセル(C) ヘルプ(H)

図 4. 「モデム設定」ウィンドウ

「ポート構成」グループ

「ポート構成」グループは、システム管理イベントが発生したときにアラートを転送するのに使うモデムを指定し、構成するのに使用します。「ポート構成」グループには、次の項目があります。

項目	説明
構成するポート	スピン・ボタンを使用して、モデムが使用するポートを選択します。このスピン・ボタンは、Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用できる値だけを表示します。 ユーザーが選択するポートは、Netfinity システム管理 PCI アダプターまたはオペレーティング・システムによるモデムの利用可能性に影響を与えます。システムまたはシステム管理サービスが利用可能なポートは、ハードウェアの構成によって異なります。利用可能なポートについては、15ページの『システム管理ポートの参照表』を参照してください。
選択済みポート	このチェックボックスは、「構成するポート」フィールドに現在表示されているポート番号が、現在 Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用するように指定されているポートであるかどうかを示します。Netfinity システム管理 PCI アダプターが、現在表示されているポート番号を使うようにしたいときは、このチェックボックスにチェック・マークを付けます。

項目	説明
初期設定ストリング	指定したモデムで使用する初期化文字列を入力します。デフォルトの文字列 (ATZ) が提供されています。ダイヤルアウト機能が正常に機能しないとき以外は、この文字列を変更しないでください。初期化文字列の変更が必要ときは、17ページの『初期化文字列に関するガイドライン』を参照してください。
接続終了ストリング	モデムに切断を指示するのに使用する初期化文字列を入力します。デフォルトの文字列 (ATH0) が提供されています。ダイヤルアウト機能が正常に機能しないとき以外は、この文字列を変更しないでください。初期化文字列の変更が必要ときは、17ページの『初期化文字列に関するガイドライン』を参照してください。
「拡張」ボタン	このボタンをクリックすると、「拡張ポート構成」ウィンドウが開きます(14ページの図5を参照)。

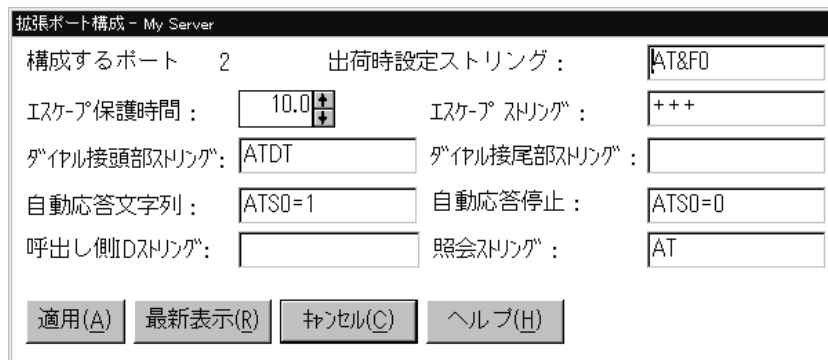


図 5. 「拡張ポート構成」ウィンドウ

「拡張ポート構成」ウィンドウには、次の項目があります。

項目	説明
エスケープ保護時間	このフィールドには、エスケープ文字列がモデムに出される前後の時間の長さを入力します。この値は 10 ミリ秒間隔で測定します。デフォルト値は 1 秒です。
ダイヤル接頭部ストリング	ダイヤルする番号の前に使用する初期化文字列を入力します。デフォルトは、プッシュホン式ダイヤル呼び出しの ATDT です。
自動応答文字列	電話が鳴ったら応答するようにモデムに指示するのに使用する初期化文字列を入力します。デフォルトは、2 回のコール後に応答 (ATS0=2) です。
呼び出し側 ID ストリング	モデムから呼び出し側 ID 情報を入手するのに使用する初期化文字列を入力します。
出荷時設定ストリング	モデムを初期化するとき、モデムを出荷時設定に戻す初期化文字列を入力します。デフォルトは AT&F0 です。
エスケープ・ストリング	他のモデムと現在交信中 (接続中) のモデムをコマンド・モードに戻す初期化文字列を入力します。デフォルトは +++ です。
ダイヤル接尾部ストリング	番号をダイヤルした後でダイヤル呼び出しを停止するようにモデムに指示するのに使用する初期化文字列を入力します。デフォルトは、改行文字または ^M です。
自動応答停止	電話が鳴ったときの自動応答を停止するようにモデムに指示するのに使用する初期化文字列を入力します。デフォルトは ATS0=0 です。
照会ストリング	モデムが取り付けられているかどうかを検出するのに使用する初期化文字列を入力します。デフォルトは AT です。

システム管理ポートの参照表

ユーザーが選択するポートは、Netfinity システム管理 PCI アダプターまたはオペレーティング・システムによるモデムの利用可能性に影響を与えます。システムまたはシステム管理サービスが利用可能なポートは、ハードウェアの構成によって異なります。

- システムにシステム管理プロセッサしかない場合は、次の表を使用して、利用可能なポートを調べてください。

物理ポート (ラベル表示)	A	B	C
システム管理が利用可能なポート	ポート 1 共用	N/A	ポート 2 専有
オペレーティング・システムが利用可能なポート	COM 1 共用	COM 2	N/A

- システムにシステム管理 PCI アダプターしかない場合は、次の表を使用して、利用可能なポートを調べてください。

物理ポート (ラベル表示)	A	B	MODEM	COM_AUX
システム管理が利用可能なポート	N/A	N/A	ポート 1 共用	ポート 2 専有
オペレーティング・システムが利用可能なポート	COM 1	COM 2	COM 3 共用	N/A

- システムがシステム管理 PCI アダプターとシステム管理プロセッサを備えている場合は、次の表を使用して、利用可能なポートを調べてください。

物理ポート (ラベル表示)	A	B	C	MODEM	COM_AUX
システム管理が利用可能なポート	ポート 1 共用	N/A	ポート 2 専有	N/A	N/A
オペレーティング・システムが利用可能なポート	COM 1 共用	COM 2	N/A	N/A	N/A

注:

- 共用ポートは、システムの稼働中は、オペレーティング・システムが検出します。共用ポートは、マシンの始動中または電源オフ時には、システム管理 PCI アダプターが検出します。DOS で始動したときも、共用ポートはシステムは検出しますが、システム管理 PCI アダプターやプロセッサは検出しません。
- システム管理 PCI アダプターだけを備えたシステムの場合(たとえば、Netfinity 7000 M10)、オペレーティング・システムが COM3 を検出するためには、デバイス・ドライバを実行する必要があります。

「ダイヤル設定」グループ

「ダイヤル設定」グループ (13ページの図4) は、モデムに関連した設定値を指定したり、システム管理イベントが発生したときにアラートを転送するのに使うモデムを構成するのに使われます。「ダイヤル設定」グループには、次の項目が含まれています。

項目	説明
ダイヤルイン使用可能	リモート・ユーザーが Netfinity システム管理 PCI アダプターにダイヤルインし、アクセスできるようにするときは、このチェックボックスにチェック・マークを付けます。このボックスにチェック・マークが付いていないときは、リモート・ユーザーは Netfinity システム管理 PCI アダプターにリモート・アクセスできません。このチェックボックスにチェック・マークを付けたり、消したりしたときは、その後で「適用」をクリックして、新しい設定を保管してください。
ダイヤルアウト再試行限界値	スピン・ボタンを使用して、システム管理がアラートの転送を試みる追加の回数を選択します。 ダイヤルアウト再試行限界値は、英数字ページャー (日本国内では利用できません) にアラート情報を転送する場合にだけ適用されます。Netfinity システムまたは数字ページャーにアラート情報を転送する場合は、この情報を転送するための試行は 1 回しか行われません。 このフィールドの最大値は 8 です。
ダイヤルアウト再試行遅延	スピン・ボタンを使用して、システム管理がダイヤルアウトを再試行する前に待つ時間の長さを秒数で指定します。 このフィールドの最小値は 30 秒、最大値は 240 秒です。
始動中の所有ポート	共用シリアル・ポートを Netfinity システム管理 PCI アダプター専用として予約するときは、このチェックボックスにチェック・マークを付けます。このボックスにチェック・マークを付けると、アダプターの内蔵通信ポートの 1 つが予約されます。このチェックボックスにチェック・マークを付けたり、消したりしたときは、その後で「適用」をクリックして、新しい設定を保管してください。

注:

1. システムをダイヤルイン・アクセス用に構成するときは、このボックスチェック・マークを付けてください。このチェックボックスにチェック・マークを付けないと、アダプターがダイヤルアウトのためにポートを再利用しなかった場合、ユーザーはこのシステムにダイヤルインできなくなります。現在システムの電源がオンであるかどうかに関係なく、常にダイヤルインが使用可能であるように Netfinity システム管理 PCI アダプターを構成したいときは、このチェックボックスにチェック・マークを付ける必要があります。このチェックボックスにチェック・マークを付けたときは、システムが指定のポートを使うように構成することはできません。
2. ポート C は、Netfinity システム管理 PCI アダプター専用です。ポート A は、オペレーティング・システムが使用し、次の条件の 1 つが存在するときにだけ、Netfinity システム管理 PCI アダプターが利用可能になります。
 - サーバーの電源がオフのとき
 - Netfinity システム管理 PCI アダプターが、使用可能なクリティカル・アラート・イベントを実行するためにポートが必要なとき (この場合、Netfinity システム管理 PCI アダプターは、オペレーティング・システムからポートの制御を取り、ダイヤルアウトした後、サーバーの電源をオフにして、ハードウェアの損傷を防止します)。

項目	説明
ダイヤルアウト間隔秒数	アラートを転送するために複数のリモート・アラート項目を構成した場合、Netfinity システム管理 PCI アダプターは、これらの項目に順次に連絡を取ろうと試みます。スピン・ボタンを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターがリモート・アラート項目のそれぞれにダイヤルアウトを試行する間に待つ時間の長さを秒数で指定します。 このフィールドの最小値は 15 秒、最大値は 120 秒です。この値は、LAN および SNMP アラート項目には適用されません。
ダイヤルイン遅延(分)	「ダイヤルイン遅延(分)」フィールドは、ダイヤルイン試行で 6 回連続して間違ったユーザー ID またはパスワードが使われた後、有効なダイヤルイン・アクセスを許可する前に経過しなければならない時間を分数で指定します。ログインが 6 回連続して失敗した後、ダイヤルイン・アクセスは指定された分数だけ使用不可にされ、Netfinity システム管理 PCI アダプターはイベント・ログに、6 回連続のログイン失敗のためにダイヤルイン・アクセスが延期されていることを通知する項目を追加し、さらに「安全保護」チェックボックスにチェック・マークが付いているときは (21 ページの図7 を参照)、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートの転送を試みます。 このフィールドの最小値は 4 分、最大値は 240 分です。

初期化文字列に関するガイドライン

新規に初期化文字列を指定する必要があるときは、モデムに付属のマニュアルを参照してください。初期化文字列には、モデムを次のように構成するコマンドが含まれていることが必要です。

- コマンド・エコーを OFF
- オンライン文字エコーを OFF
- 結果コードを使用
- 単語形式結果コードを使用
- BUSY と DT の検出時に、すべてのコードと Connect メッセージを含める
- プロトコル ID の追加 - LAPM/MNP/NONE V42bis/MNP5
- 標準 CD 操作
- DTR ON-OFF でハングアップし、AA を使用不可にし、コマンド・モードに戻る
- CTS ハードウェア・フロー制御
- コンピューターに対する受信データの RTS 制御
- キューイングありの非破壊 BREAK 信号、エスケープ状態なし

注: これらのコマンドの省略形は、次の意味を持っています。

AA	自動応答
CD	キャリア検出
CTS	送信可
DT	データ転送
DTR	データ端末レディー
RTS	送信準備完了

ダイヤルアウト項目の設定の変更

選択したダイヤルアウト項目に設定を適用するには、次のようにします。

1. モデム設定を指定する。
2. ダイヤル設定を指定する。
3. 「適用」をクリックして、これらの設定を保管し、「リモート・アラート設定」ウィンドウに戻る。

ネットワーク設定

「ネットワーク設定」ウィンドウ (図6) は、Netfinity システム管理 PCI アダプターのネットワーク設定を指定するのに使用します。「ネットワーク設定」ウィンドウを開くには、「構成の設定」ウィンドウで「ネットワーク」をクリックします (6ページの『構成の設定』を参照)。

注: このウィンドウが利用可能なのは、システム管理サービスを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターを備えたシステムを管理している場合、またはダイナミック接続マネージャーを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターとの TCP/IP、シリアル、またはシステム管理インターコネクト・リンクを確立してある場合だけです。

ネットワーク設定 - My Server

ネットワーク インターフェイス: 1 インターフェイス使用可能(I)

ホスト名: name.address.com

IP アドレス: 10.0.0.21

サブネット マスク: 255.255.255.0

ゲートウェイ: 0.0.0.0

回線タイプ: イーサネット 経路指定(O)

データ転送率: AUTO

二重: AUTO

MTU サイズ: 1514

MAC アドレス: 10.00.00.00.00.21

適用(A) 最新表示(R) キャンセル(C) ヘルプ(H) 再始動(S)

図 6. 「ネットワーク設定」ウィンドウ

「ネットワーク設定」ウィンドウには、次の項目があります。

項目	説明
「ネットワーク・インターフェース」スピン・ボックス	スピン・ボタンを使って、構成するネットワーク・インターフェースを選択します。使用したいネットワーク・インターフェースを選択したら、「インターフェース使用可能」チェックボックスにチェック・マークを付けてください。同時に1つのネットワーク・インターフェースしか使用可能にできません。
ホスト名	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用する TCP/IP ホスト名を入力します。
IP アドレス	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用する IP アドレスを入力します。
サブネット・マスク	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用するサブネット・マスクを入力します。
ゲートウェイ	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用するゲートウェイの TCP/IP アドレスを入力します。
回線タイプ	スピン・ボタンを使って、Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用する回線タイプを選択します。選択項目は「イーサネット」と「トークンリング」です。必要な場合は、「経路指定」チェックボックスにチェック・マークを付けます。デフォルト設定は、イーサネットです。
データ転送率	スピン・ボタンを使って、Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用するデータ転送速度を選択します。選択項目は、AUTO (イーサネット接続とトークンリング接続の両方に適用)、4M (トークンリング接続のみ)、16M (トークンリング接続のみ)、10M (イーサネット接続のみ)、100M (イーサネット接続のみ) です。デフォルト設定は AUTO です。
二重	スピン・ボタンを使って、Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用する二重方式を選択します。選択項目は AUTO、FULL (全二重)、HALF (半二重) です。デフォルト設定は AUTO です。
MTU サイズ	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用する最大伝送単位 (MTU) 値を入力します。使用可能な設定は、イーサネット接続は 60-1514 (1514 が推奨設定値)、4MB トークンリング接続は 60-4440 (4440 が推奨設定値)、16MB トークンリング接続は 60-17936 (4440 が推奨設定値) です。デフォルト設定は 1514 です。
MAC アドレス	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用する媒体アクセス制御 (MAC) アドレスを入力します。デフォルト値は 00.00.00.00.00.00 ですが、システム管理は、固有の出荷時設定 MAC アドレスを使うことになります。

これらの設定を変更した後、「適用」をクリックして変更を保管し、「再始動」をクリックして Netfinity システム管理 PCI アダプターを再始動すると、変更が有効になります。Netfinity システム管理 PCI アダプターに関するネットワーク設定の変更は、アダプターを再始動するまでは有効になりません。

重要

Netfinity システム管理トークンリング接続をインストールした場合は、システム管理 PCI アダプターに内蔵されているイーサネット・ポートを使用可能にしたり、使用したりしてはなりません。アダプターにシステム管理トークンリング・カードが取り付けられているときに、イーサネット・ポートを使用可能にすると、システムが不安定になります。イーサネット・ポートを使用可能化、構成、または使用するためには、最初にシステム管理トークンリング・カードを、システム管理 PCI アダプターから取り外すことが必要です。

リモート・アラート設定

「リモート・アラート設定」ウィンドウ (21ページの図7) は、システム管理アダプターまたはプロセッサのアラート転送機能を構成するのに使用します。リモート・アラート項目が構成されている場合、「アラート使用可能」グループから選択されたイベントが発生すると、システム管理アダプターまたはプロセッサは、リモート Netfinity システム (シリアル接続またはネットワーク接続経由)、数字ページャー、英数字ページャー (日本国内では利用できません)、または SNMP コミュニティーに、アラートの転送を試みます。このアラートには、発生したイベントの種類、イベントが発生した時刻と日付、アラートを生成したシステムの名前に関する情報が入っています。

システム管理がアラートを SNMP コミュニティーに転送できるようにするには、システム管理 SNMP 設定を構成しておく必要があります。SNMP 設定を構成するには、「SNMP」をクリックします。「SNMP 設定」ウィンドウが開きます。詳しくは、25ページの『SNMP 設定』を参照してください。

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

システム管理アダプターまたはプロセッサは、個々のクリティカルおよび非クリティカル・イベントに応答して、複数のページャーまたは Netfinity マネージャーにアラートを転送するように構成できます。そのため、「ダイヤルアウト状況」テキストは、最初のアラート転送操作が開始するとすぐにダイヤルアウト・オンになり、そのアラート転送操作が完了するとダイヤルアウト・オフに変更され、2 番目のアラート転送操作が開始すると、再びダイヤルアウト・オンに変更され、2 番目のアラート転送操作が完了するとダイヤルアウト・オフに変更されるといった具合になります。「ダイヤルアウトの停止」をクリックすると、Netfinity システム管理 PCI アダプターは、現在活動状態のアラート転送操作を中止し、次のアラート転送操作に移ります。

Netfinity システム管理 PCI アダプターは、最大 12 の個別リモート・アラート項目をもつように構成できます。

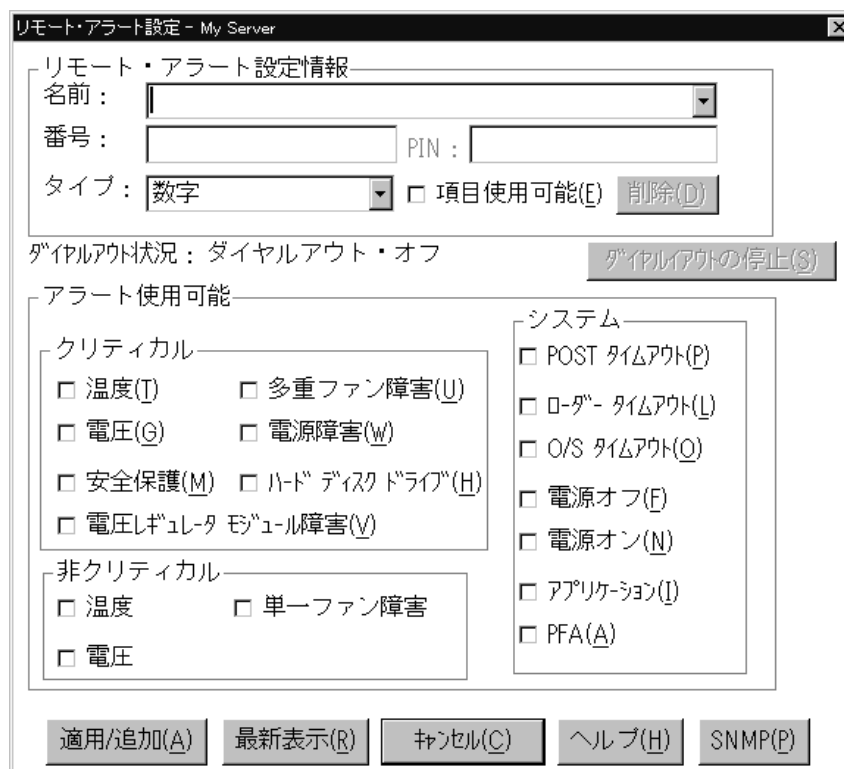


図 7. 「リモート・アラート設定」ウィンドウ

「リモート・アラート設定情報」グループ

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) としての働きだけです。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

リモート・アラート設定を編集または作成するときは、次のようにします。

1. 「名前」フィールドには、アラートの転送先の人またはシステムの名前を入力します。
「名前」フィールドの情報の使用目的は、リモート・アラート項目の識別だけに限られます。以前に構成したリモート・アラート項目を編集するときは、編集したい項目を「名前」選択リストから選びます。
2. 「番号」フィールドには、アラートを転送するのに使用する電話番号 (シリアル・リンクを使用して、アラートをページャーまたは Netfinity システムに転送する場合) または IP アドレス (ネットワーク・アダプターを使用して、アラートをシステムに転送する場合。この機能は Netfinity システム管理 PCI アダプターでのみサポート) を入力します。

注: ページャー・サービスによっては、このアラート・アクションが、電話番号をダイヤルした後、数値データを転送する前に待つ時間を増やすことが必要になる場合が

あります。数値データを転送する前に経過する時間を増やすには、電話番号の最後に 1 つまたは複数のコンマ (,) を追加します。モデムは、コンマ 1 つにつき 2 秒ずつ待ってから、数値データを転送します。

3. 「PIN」フィールドには、英数字ページャー (日本国内では利用できません) のプロバイダーが必要とする個人識別番号を入力します。このフィールドは、「タイプ」フィールドで「英数字」を選択したときにだけアクティブになります。
4. 「タイプ」選択リストから、Netfinity システム管理 PCI アダプターがイベント通知を転送するために試みる接続のタイプを選択します。選択できるのは、数字 (標準ページャーのとき)、英数字 (英数字ページャーのとき)、Netfinity シリアル (シリアル・リンクを使ってリモート Netfinity システムに接続するとき)、Netfinity TCPIP (TCP/IP リンクを使ってリモート Netfinity システムに接続するとき、Netfinity システム管理 PCI アダプターを持つシステムでだけ利用可能) です。
5. 「項目使用可能」チェックボックスにチェック・マークを付けて、このリモート・アラート項目をアクティブにします。「項目使用可能」チェックボックスにチェック・マークが付いていないと、この項目にはアラートは転送されません。
6. 「アラート使用可能」グループから、ダイヤルアウト・イベントを選択します。チェック・マークが付いているイベントが発生すると、Netfinity システム管理 PCI アダプターは、「番号」フィールドに指定された電話番号または IP アドレスを使用し、「タイプ」フィールドで選択された方法を使って、そのイベントを記述したアラートを転送します。これらのイベントについての詳しい情報は、『「アラート使用可能」グループ』を参照してください。
7. 「適用/追加」をクリックして、これらの設定値を保管します。

以前に構成したリモート・アラート項目を除去するときは、その項目の名前を「名前」選択リストから選んで「削除」を選択します。

「アラート使用可能」グループ

「アラート使用可能」グループの選択項目は、システム管理アダプターまたはプロセッサが、現在構成されているすべての項目に連絡するイベントを指定するのに使用します。指定された項目が Netfinity システム管理 PCI アダプターによって検出されると、そのイベントを記述したアラートが、「リモート・アラート設定情報」ウィンドウの「タイプ」フィールドで選択された方法を使って、「名前」フィールドに指定された受信側に転送されます。

アラートをページャーに転送するときは、システム管理は、そのアラートを生成したイベントに関する情報を含めます。アラートを数字 (標準) ページャー (日本国内では利用できません) に転送するときは、それを生成したイベントに対応するコード番号をページに含めます。アラートを英数字ページャーに転送するときは、それを生成したイベントを記述するコード番号とテキスト・ストリングの両方をページに含めます。ページャーに転送される数字コードとテキスト・ストリングの詳細は、以下に示す表を参照してください。

アラートの転送に使われるのがシリアル・リンクか TCP/IP リンクかに関係なく、転送された Netfinity マネージャー・アラートには、数字コードとテキスト・ストリングがすべて含まれています。転送された SNMP アラートにも、すべての情報が入っています。

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

「アラート使用可能」グループは、「クリティカル」、「非クリティカル」、「システム」グループに分けられています。「アラート使用可能」の「クリティカル」グループには、次の項目があります。

項目	説明 (チェック・マークが付いているとき)	数字 コード	テキスト・ ストリング
温度	モニターしている温度がしきい値を超えると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートを転送し、自動的にシステムの遮断を開始します。	00	SYSTEM SHUTDOWN DUE TO TEMPERATURE
電圧	モニターしている電源の電圧が指定の動作範囲を外れると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートを転送します。	01	SYSTEM SHUTDOWN DUE TO VOLTAGE
安全保護	6 回連続してリモート・ログイン試行が失敗すると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはイベント・ログに項目を追加します。	02	SYSTEM TAMPER ALERT
多重ファン障害	システムの冷却ファンのうちの 2 つ (または、それ以上) に障害が起こると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートを転送し、さらに自動的にシステムの遮断を開始します。	03	MULTIPLE SYSTEM FAN FAILURES
電源障害	システムの電源に障害が起こると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートを転送します。	04	POWER SUPPLY FAILURE
ハード・ディスク・ドライブ	システムのハード・ディスク・ドライブの 1 台またはそれ以上に障害が起こると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートを転送します。	05	DASD FAULT
電圧レギュレーター・モジュール障害	電圧レギュレーター・モジュール (VRM) に障害が起こると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートを転送し、自動的にシステムの遮断を開始します。	06	VRM FAILURE

「アラート使用可能」の「非クリティカル」グループには、次の項目があります。

項目	説明 (チェック・マークが付いているとき)	数字 コード	テキスト・ ストリング
単一ファン障害	システムの冷却ファンの 1 つに障害が起これば、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートを転送します。	11	SINGLE FAN FAILURE
温度	モニターしている温度がしきい値を超えると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートを転送します。しかし、「クリティカル温度」イベントとは異なり、このアラートは自動的にシステム遮断を開始しません。	12	NON-CRITICAL TEMPERATURE THRESHOLD EXCEEDED
電圧	モニターしている電圧がしきい値を超えると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートを転送します。	13	VOLTAGE

「アラート使用可能」の「システム」グループには、次の項目があります。

項目	説明 (チェック・マークが付いているとき)	数字 コード	テキスト・ ストリング
POST タイムアウト	「POST タイムアウト値」(「構成の設定」ウィンドウで指定)を超えると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートを転送します。	20	POST/BIOS WATCHDOG EXPIRED. SYSTEM RESTARTED
O/S タイムアウト	「O/S タイムアウト値」(「構成の設定」ウィンドウで指定)を超えると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートを転送します。	21	OPERATING SYSTEM WATCHDOG EXPIRED. SYSTEM RESTARTED
アプリケーション	Netfinity アラートを受信すると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートを転送します(Netfinity は、アラート・マネージャーの「システム管理エラー・ログにアラートを送信」アクションを使用して、直接 Netfinity システム管理 PCI アダプターにアラートを転送できます)。	22	APPLICATION LOGGED EVENT
電源オフ	システムの電源がオフになると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートを転送します。	23	SYSTEM COMPLEX POWERED OFF
電源オン	システムの電源がオンになると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートを転送します。	24	SYSTEM COMPLEX POWERED ON
ローダー・タイムアウト	「ローダー・タイムアウト値」(「構成の設定」ウィンドウで指定)を超えると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートを転送します。	26	LOADER WATCHDOG EXPIRED. SYSTEM RESTARTED

項目	説明 (チェック・マークが付いているとき)	数字 コード	テキスト・ ストリング
PFA	システムから事前障害分析 (PFA) アラートを受信すると、Netfinity システム管理 PCI アダプターはアラートを転送します。	27	PFA

SNMP 設定

「SNMP 設定」ウィンドウ (図8) は、Netfinity システム管理 PCI アダプターの SNMP 設定を指定するのに使用します。Netfinity システム管理 PCI アダプターが、ネットワーク上の SNMP マネージャーにアラートを転送するためには、これらの設定を正しく構成する必要があります。「SNMP 設定」ウィンドウを開くには、「システム管理」ウィンドウの「リモート・アラート設定」をクリックし、次に「SNMP」をクリックします。

注: このウィンドウが利用可能なのは、システム管理サービスを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターを備えたシステムを管理している場合、またはダイナミック接続マネージャーを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターとの TCP/IP、シリアル、またはシステム管理インターコネクト・リンクを確立してある場合だけです。Netfinity システム管理 PCI アダプターを備えたシステムに接続していないときは、このウィンドウは利用不能になります。

図 8. 「SNMP 設定」ウィンドウ

「SNMP 設定」ウィンドウには、次の項目があります。

項目	説明
SNMP エージェント使用可能	Netfinity システム管理 PCI アダプターがネットワーク上の SNMP マネージャーにアラートを転送することを使用可能にするときは、このチェックボックスにチェック・マークを付けます。

項目	説明
トラップ使用不可	SNMP トラップが送信されないようにするときは、このチェックボックスにチェック・マークを付けます。
システムの連絡先	このフィールドには、SNMP システムの連絡先の名前を入力します。
システムの場所	このフィールドには、システムの場所に関する情報を入力します。
コミュニティ	このスピン・ボックスを使用して、最大 3 つまで SNMP コミュニティーを選択し、定義します。 注: SNMP アラートは、現在選択されている SNMP コミュニティーにだけ送信されます。
コミュニティ名	選択した SNMP コミュニティーの名前を入力します。
コミュニティ IP アドレス 1、2、3	選択した SNMP コミュニティーの IP アドレスを入力します。

これらの設定を変更した後、「適用」をクリックして変更を保管します。次に、このウィンドウを閉じて、「ネットワーク設定」ウィンドウで「再始動」をクリックします。Netfinity システム管理 PCI アダプターに関するネットワーク設定の変更は、アダプターを再始動するまでは有効になりません。

イベント・ログ

イベント・ログを使用して「イベント・ログ」ウィンドウを開くことができます(図9)。このウィンドウには、システム管理アダプターまたはプロセッサのイベント・ログに現在保管されている項目がすべて表示されます。システム管理アダプターまたはプロセッサのイベント・ログには、リモート・アクセスの試行やダイヤルアウト・イベントに関する情報がすべて記録されています。



図 9. 「イベント・ログ」ウィンドウ

注:

1. Netfinity システム管理 PCI アダプターが導入された Netfinity 7000 M10 サーバーで、システム管理サービスを使用している場合、イベント・ログにテキスト I2C メッセージで始まる項目が含まれていることがあります。このようなメッセージは正常であり、IBM サービス技術員がシステム問題の解決のために使用するものです。
2. Netfinity 7000 M10、5000、5500、5500 M10、または 5500 M20 サーバーでシステム管理サービスを使用している場合は、イベント・ログに POST エラー・メッセージも含まれています。

「イベント・ログ」ウィンドウの「オプション」プルダウン・メニューから、次の機能を使用できます。

- ロード
「イベント・ログ」ウィンドウの内容を最新表示します。
- ファイルに印刷
「イベント・ログ」ウィンドウの内容をテキスト・ファイルに保管します。
- プリンターに印刷
「イベント・ログ」ウィンドウの内容を、システムに接続されたプリンターに送ります。
- ログの消去
イベント・ログに現在保管されている項目がすべて消去されます(「イベント・ログ」ウィンドウに現在表示されていない項目も含めて)。

注: 「ログの消去」を使ってイベント・ログの項目を消去すると、それらの項目は永久的に消去され、検索できなくなります。

稼働パラメーター

「稼働パラメーター」ウィンドウ (28ページの図10 を参照) には、システム管理アダプターまたはプロセッサによってモニターされている種々のシステム・コンポーネントの現行値や状況が表示されます。

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

表示される値には、次のものが含まれます。

- 電源電圧 (+5 V ac、+12 V ac、+3.3 V ac、-12 V ac。Netfinity 7000 M10 サーバーには -5 V ac と電圧レギュレーター・モジュール (VRM) のモニター機能が追加装備されています)。

- システム・コンポーネント (アダプター・カードの終端、アダプター・カードの中央、マイクロプロセッサ、システム・ボード、ハード・ディスク・ドライブ・バックプレーンなど) の現在の温度としきい値レベル。

注:

1. モニターされるシステム・コンポーネントは、システム管理アダプターまたはプロセッサによって異なります。
 2. VRM 電圧はモニターされていますが、表示されません。
- システム電源状況 (オンまたはオフ)
 - 電源オン時間 - システムの電源がオンになっていた合計時間数(これは、電源がオンであったすべての時間の累計で、前回のシステム再始動からの時間数ではありません)。
 - システム状態 (O/S 開始、O/S 稼働中、POST 開始、POST 停止(エラー検出)、システム電源オフ / 状態不明を含む)

温度 (摂氏)					
	値	警告リセット	警告	ソフト遮断	ハード遮断
カードの終端	31.00	41.00	50.00	55.00	
ディスク・バックプレーン		46.00	55.00	60.00	

電圧		システム状況	
ソース	値	警告リセット	
+5 ボルト	(4.90, 5.10)		システム電源 OFF
+3 ボルト	(3.26, 3.46)		電源オン時間 364
+12 ボルト	(11.50, 12.60)		始動カウント 110
-12 ボルト	(-13.20, -10.80)		システム状況 システム電源オフ
			ファン1
			ファン2
			ファン3
			ファン4

図 10. 「稼働パラメーター」ウィンドウ

システム電源制御

「システム電源制御」ウィンドウ (29ページの図11) は、Netfinity システム管理 PCI アダプターに、システムの電源オフ、システムの再始動、システムの電源オンを指示するのに使われます。電源制御オプションを設定するときは、最初に「電源制御オプション使用可能」チェックボックスにチェック・マークを付ける必要があります。このチェックボックスにチェック・マークを付けないと、「電源制御オプション」フィールドは使用可能になりません。

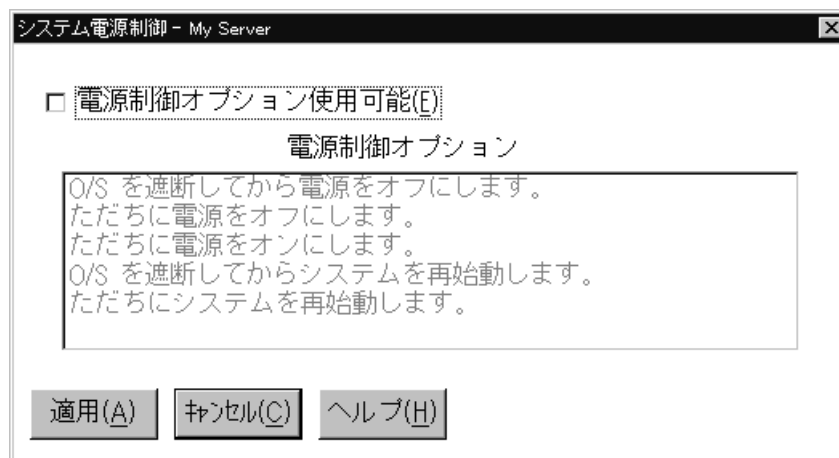


図 11. 「システム電源制御」ウィンドウ

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

次のシステム電源制御機能は、常に使用可能です。

機能	説明
O/S を遮断してから電源をオフにします。	システムの電源をオフにする前に、O/S を遮断します。
ただちに電源をオフにします。	システムの電源を即時にオフにします。
O/S を遮断してからシステムを再始動します。	O/S を遮断し、システムの電源をオフにした後、システムの電源をオンにします。
ただちにシステムを再始動します。	システムの電源を即時にオフにした後、システムの電源をオンにします。

モデムまたは TCP/IP リンクを通して Netfinity システム管理 PCI アダプターに直接接続しているときは、「ただちに電源をオンにします。」も選択できます。この機能は、システムの電源をオンにして、マイクロプロセッサが POST、ロード、および O/S 始動手順を実行できるようにします。

電源制御オプションを設定するには、次のようにします。

1. 「電源制御オプション使用可能」チェックボックスにチェック・マークを付けます。
2. 「電源制御オプション」フィールドから、アクティブにしたい電源制御オプションを選択します。

3. 「適用」をクリックします。

リモート POST コンソール

システム管理のリモート POST コンソール機能を使用すると、POST 中に生成されるテキスト出力をすべてリモートでモニター、記録、再生できます。

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

リモート・システム上の POST データをモニターし、記録するには、次のようにします。

1. リモート・システムの Netfinity システム管理 PCI アダプターに接続します。
2. 「リモート POST コンソール」ウィンドウを開きます。
3. リモート・システムを再始動します (システム管理のシステム電源制御機能を使用してください)。

リモート・システムが POST を完了すると、すべての POST データが、リモート POST コンソールに表示され、記録されます。リモート・システムの POST をモニターしている間は、ローカル・キーストロークはすべてリモート・システムに自動的に中継されるので、リモート・システム上の POST プロセスと対話できます。

POST が完了した後でデータを再表示するには、リモート・システムとの接続を切断し、再生機能を使用します。

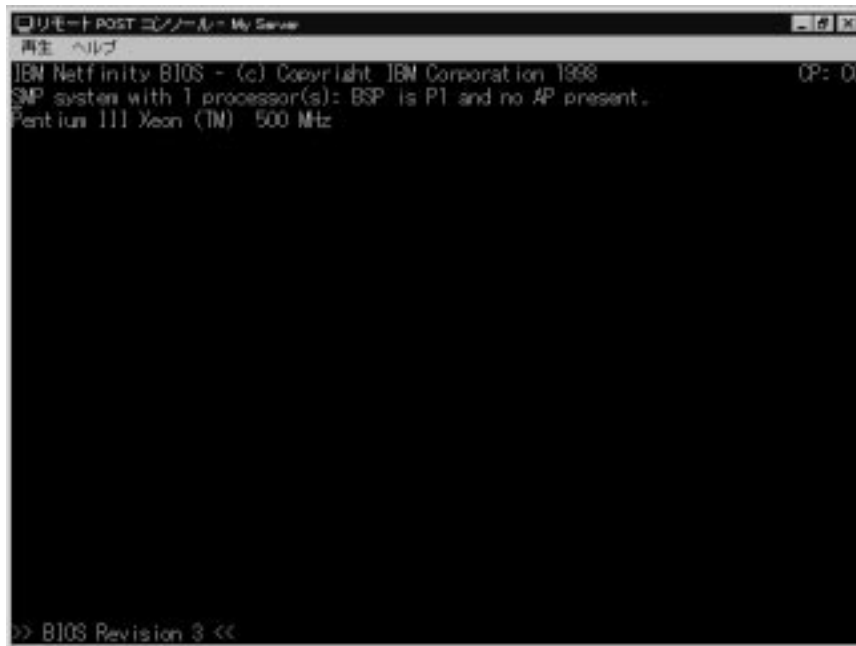


図 12. 「リモート POST コンソール」ウィンドウ

「再生」プルダウン・メニューの選択項目は、前回のリモート POST 操作で記録されたテキスト出力を再生するのに使用します。POST 中にリモート・システムによって表示されたテキストが、すべてリモート・システム上に表示されたとおりに表示されます。

- 記録された POST データの再生を開始するとき、または再生を停止した後で、記録された POST データの再生を再開するときは、「最後の POST の再生」をクリックします。
- 記録された POST データの再生を停止するときは、「停止」をクリックします。
- 記録された POST データを最初から再生し直すときは、「再始動」をクリックします。
- 記録された POST データを表示する速度を指定するときは、「リモート POST コンソール」ウィンドウで「高速」、「中速」、または「低速」を選択します。

注: リモート POST データの再生は、リモート・システムの Netfinity システム管理 PCI アダプターに接続していないときにしか、実行できません。

Netfinity システム管理 PCI アダプターのマイクロコードの更新

Netfinity システム管理 PCI アダプターのマイクロコードを更新するには、次のようにします。

1. 「オプション」プルダウン・メニューから「マイクロコードの更新」を選択し、次に「システム管理」を選択します。

「システム管理マイクロコード更新ディスクをドライブ a: に挿入してください」というメッセージが表示されます。

2. システム管理 PCI アダプターのマイクロコード更新ディスクをドライブ a: に挿入して、「OK」を選択します。

「適用するマイクロコードを選択してください」というメッセージが表示されます。

3. 適用するマイクロコードを選択して、「**OK**」を選択します。

この後、幾つかのメッセージが表示されることがありますが、その指示に従ってください。システム管理サービスは、マイクロコード更新を Netfinity システム管理 PCI アダプターに適用します。

この処理の間、Netfinity システム管理 PCI アダプターの一部のモニター機能 (環境のモニターなど) が使用不可になります。マイクロコードの更新が完了すると、システム・モニター機能はすべて再開されます。

ダイナミック接続マネージャー

ダイナミック接続マネージャーは、Netfinity マネージャーに組み込まれているシリアル接続制御サービスの更新された拡張版です。このシリアル接続制御の拡張版は、Netfinity マネージャー 5.2.1 以降のインストール時に「システム管理」オプションを選択した場合にだけ導入されます。Netfinity マネージャー 5.2.1 以降のインストール時にシステム管理を選択しないと、ダイナミック接続マネージャーの代わりに、シリアル接続制御が導入されます。シリアル接続制御については、*Netfinity マネージャー ユーザーズ・ガイド*の「シリアル接続制御」の章を参照してください。

シリアル接続制御と同様に、ダイナミック接続マネージャーを使用すると、ご使用のシステムに取り付けられたモデムを使って、別の Netfinity マネージャーにリモート・アクセスできます。正しく構成すれば、LAN に接続しているかのようにして、モデムだけを使って他の Netfinity マネージャー・システムにアクセスし、管理することができます。ダイナミック接続マネージャーを使用して Netfinity マネージャーに接続しているときは、リモート・システム上のリモート・システム・マネージャーを利用して、そのシステムをパススルーして、リモート・システムのネットワーク上の他の任意の Netfinity マネージャー・システムを管理できます。

また、LAN に接続されていない場合、Netfinity マネージャーのダイナミック接続マネージャー・サービスを使用すれば、システム管理者は任意の Netfinity マネージャー・アプリケーションを使ってシステムを管理できるようになり、オフィスを訪れたり、作業を中断したりする必要がなくなります。

シリアル接続制御サービスで提供される機能に加えて、ダイナミック接続マネージャーを使用すると、Netfinity システム管理 PCI アダプターを備えた TCP/IP または RS-485 インターコネクト・ネットワーク・サブシステムに直接リンクできます。このリンクが確立された後は、サーバーの電源が現在オンになっている(動作可能である)かどうかに関係なく、システム管理サービスを使用して、直接 Netfinity システム管理 PCI アダプターにアクセスしたり、モニター、構成、管理を行うことができます。

注:

1. ダイナミック接続マネージャーのシリアル・リンク機能を使用するには、少なくとも 9600 ボーをサポートするモデムが、システムに正しく取り付けられ、正しく構成されていることが必要です。
2. ダイナミック接続マネージャーの TCP/IP リンク機能を使用するには、システムが TCP/IP ネットワークに接続され、TCP/IP プロトコル・ドライバーが使用可能にされていることが必要です (ドライバーはインストール時に使用可能にします。現在、使用可能になっていない場合は、ネットワーク・ドライバー構成を使用して、使用可能にしてください)。
3. ダイナミック接続マネージャーのシステム管理インターコネクト・リンク機能を使用するには、システムがシステム管理インターコネクト・ネットワークに接続されていることが必要です。

注: ダイナミック接続マネージャーを使用すると、シリアル接続または TCP/IP 接続を使用して、リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサに接続し、次にシステム管理インターコネクト機能を使用して、そのシステムを“パススルー”して、リモート・システムのシステム管理インターコネクト・ネットワーク上の他の

システム管理アダプターまたはプロセッサに接続できます。詳しくは、41ページの『システム管理インターコネクト・パススルー管理』を参照してください。



図 13. ダイナミック接続マネージャー

モデムの構成

ダイナミック接続マネージャーのシリアル・リンク機能を使用して、リモート・システムにアクセスしたり、システムのリモート・アクセスを使用可能にしたりする前に、モデムを正しく構成しておく必要があります。

システムのモデムを構成するには、次の手順で行います。

1. 「ダイナミック接続マネージャー」メニューから「モデム設定」を選択します。

「モデム設定」ウィンドウが開きます (35ページの図14 を参照)。

2. 構成するモデムの「COM ポート」を選択します。

「構成する COM ポート」フィールドの横のスピン・ボタンを使用して、モデムの COM ポートを選択します。

3. 「モデム名」を選択するか、新しい名前を入力します。

「モデム名」フィールドからシステムのモデムの名前を選択するか、新しい名前を入力します。Netfinity マネージャーでは、いくつかの一般的なモデム・タイプの設定が事前構成されていますが、ご使用のモデムが「モデム名」フィールドのリストにない場合、またはシステムで使われているモデムの種類が分からない場合は、「Default」を選んでください。「Default」設定を使っているときに、モデムが正常に機能しない場合は、42ページの『初期化文字列に関するガイドライン』を参照してください。

注: 事前構成された「モデム名」または「Default」を選択すると、他のモデム構成情報は自動的に記入されます。

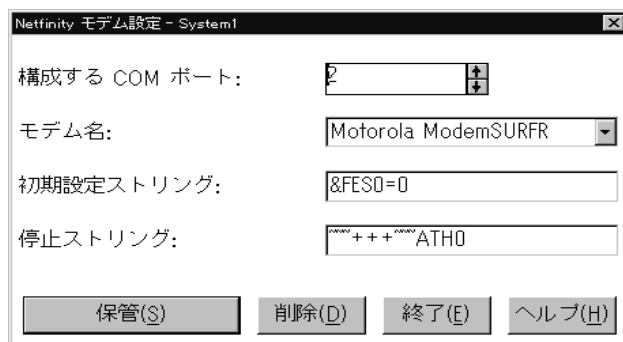


図 14. ダイナミック接続マネージャー - 「モデム設定」ウィンドウ

4. モデム名を入力した場合は、システムのモデムの正しい「初期設定ストリング」を入力してください。

事前構成された「モデム名」の 1 つを選択した場合は、このフィールドは自動的に記入されます。ご使用のモデムの設定が Netfinity マネージャーに事前構成されていない場合は、このフィールドを編集することが必要になる場合があります。詳しい情報が必要な場合は、42ページの『初期化文字列に関するガイドライン』を参照してください。

5. システムのモデムの正しい「停止ストリング」を入力します。

「停止ストリング」フィールドには、電話回線への接続をクローズすることを指示するために、モデムに送信するコマンドが入っています。このストリングは、ほとんどのモデムで正常に機能します。ご使用のモデムが、デフォルトの停止ストリングに正しく応答しない場合は、モデムに付属のマニュアルで詳しい情報を入手してください。

6. 「保管」を選択して、これらの設定値を保管し、ダイナミック接続マネージャーでこのモデムを使用できるようにします。

リモート・アクセスの使用可能化

ダイナミック接続マネージャーでできるようにモデムを構成したら、ネットワーク管理者や他の許可ユーザーに、システムへのアクセス権限を与えることが必要です。これによって、許可ユーザーは、ダイナミック接続マネージャーを使ってシステムにアクセスできるようになります。システムへのアクセス権限を与えるには、次のようにします。

1. 「名前」選択リストから「自動応答」を選択して、ダイナミック接続マネージャーを自動応答モードに設定します。
2. 安全保護マネージャー・サービスを使用して、許可ユーザーがシステムにログオンするときに使用するユーザー ID / パスワードの組み合わせを構成します。

ダイナミック接続マネージャー・サービスを自動応答モードに設定するには、次のようにします。

1. Netfinity マネージャーのダイナミック接続マネージャー・サービスを開始します。
2. 「ダイナミック接続マネージャー」ウィンドウの「名前」フィールドから「自動応答」を選択します。

自動応答に設定すると、ダイナミック接続マネージャー・サービスは、モデムを通して着信した電話の呼び出しに自動的に応答します。電話に応答した後、発呼側システムとのリンクの確立を試みます。

3. ヌル・モデム接続を使用して接続を確立する場合は、「ヌル・モデム」を選択します。

4. ダイナミック接続マネージャーのユーザー ID とパスワードを設定します。

安全保護マネージャー・サービスを使用して、許可ユーザーがシステムにログオンするときに使用するユーザー ID / パスワードの組み合わせを構成します。リモート・ユーザーがこのシステムにダイヤルインする場合、このシステム上の Netfinity マネージャー・サービスにアクセスするときは、ユーザー ID とパスワードを提供することが必要になります。Netfinity マネージャーのユーザー ID / パスワードの組み合わせの構成方法については、*Netfinity マネージャー ユーザーズ・ガイド*の「安全保護マネージャー」の章を参照してください。

5. 「開始」を選択します。

「開始」を選択すると、ダイナミック接続マネージャーは着呼を待ち始めます。「ダイナミック接続マネージャー」ウィンドウの「状況」フィールドに「接続までお待ちください」が表示されたら、「終了」を選択できます。ダイナミック接続マネージャーは、バックグラウンドで着呼を待ち続けます。

注: Netfinity マネージャーを開始したときに、ダイナミック接続マネージャーが自動的に開始し、着呼を待ち始めるようにしたい場合は、「自動応答」を選択し、次に「自動開始」チェックボックスを選択します。

ダイナミック接続マネージャーを使用するようにモデムを構成したら、他の Netfinity マネージャー・システムへのリモート・アクセスを可能にするシリアル接続項目を作成できます。

ダイナミック接続マネージャー項目の作成

ダイナミック接続マネージャー項目は、「ダイナミック接続マネージャー」ウィンドウの該当するフィールドに記入して追加します。2 つのタイプの項目を作成できます。

- Netfinity マネージャー接続

ダイナミック接続マネージャーとモデムを使用して、Netfinity マネージャーを稼働するリモート・システム上のダイナミック接続マネージャー・サービスまたはシリアル接続制御サービスとのシリアル接続を確立する、Netfinity マネージャー接続を作成します。この接続が確立されると、Netfinity マネージャー・サービスを使用して、ユーザーのネットワークに接続されているのと同様に、リモート・システムをリモートでモニターし、管理できます。

- システム管理プロセッサ接続

ダイナミック接続マネージャーを使用して、サーバーの 1 つに導入されている PC サーバー・システム管理アダプター、Netfinity システム管理プロセッサ、または Netfinity システム管理 PCI アダプターと直接接続する、Netfinity マネージャー接続を作成します。ダイナミック接続マネージャーを使用してリモートのシステム管理ハードウェアに直接リンクしている場合は、リモート・サーバー上で Netfinity マネージャーが稼働していなくても、システム管理サービスを使用して、システム管理ハードウェアをモニターし、管理できます。

注: システム管理プロセッサ接続の場合は、システム管理サービスしか使用できません。リモート・システム上のその他の Netfinity マネージャー・サービスは、使用できなくなります。

Netfinity マネージャー接続項目の作成

新規のダイナミック接続マネージャーの Netfinity マネージャー接続項目を追加するには、次のようにします。

1. 項目に名前を割り当てます。

「名前」フィールドに、個々のシステム用に作成するダイナミック接続マネージャー項目の固有の名前を入力します。たとえば、これにはダイナミック接続マネージャー・アクセス用に構成するシステムのシステム名を使用すると便利ですが、「名前」項目は、説明のためだけなので、どのような名前でもかまいません。

2. リモート・システムの電話番号を入力します。

「番号」フィールドに、アクセスするシステムの電話番号を入力します。このシステムに到達するために必要な市外局番とプレフィックスも必ず含めてください(たとえば、一部の電話システムでは、外線につなぐのに 9 をダイヤルする必要があります)。

注: 電話番号には、括弧やダッシュを使わないでください。

3. COM ポートを割り当てます。

リモート・システムにアクセスするのに使用するモデムの「COM ポート」を選択します。

4. モデムのボー・レートを指定します。

リモート・システムにアクセスするのに使用するモデムの「ボー・レート」を選択します。

注:

- a. シリアル接続で頻繁に障害が起きるときは、ボー・レートを下げてください。ボー・レートが高くなるほど、回線ノイズに敏感になります。
- b. 最良のパフォーマンスを得るために、モデムの最高速度以上のボー・レートを選択してください。

5. リモート・システムにログオンするためのユーザー ID を入力します。

リモート・システムへのアクセスを許可する「ユーザー ID」を入力します。これは、リモート・システムの安全保護マネージャーへのアクセスを許可するために構成されたユーザー ID / パスワードの組み合わせと一致していなければなりません。

6. リモート・システムにログオンするためのパスワードを入力します。

リモート・システムへのアクセスを許可する「パスワード」を入力します。これは、リモート・システムの安全保護マネージャーへのアクセスを許可するために構成されたユーザー ID / パスワードの組み合わせと一致していなければなりません。

7. ヌル・モデム接続を使用して接続を確立する場合は、「ヌル・モデム」を選択します。

8. ダイナミック接続マネージャー項目を保管します。

「適用」を選択して、この項目を保管します。

システム管理プロセッサ接続項目の作成

新規のダイナミック接続マネージャーのシステム管理プロセッサ接続項目を追加するには、次のようにします。

1. 「システム管理プロセッサ」チェックボックスにチェック・マークを付けます。

このチェックボックスにチェック・マークを付けると、「システム管理プロセッサ接続」ボタン・グループの選択項目が使用可能になります。

2. 「システム管理プロセッサ接続」タイプを選択します。

3 つの接続タイプの 1 つを選択できます。

- シリアル・リンク

「システム管理プロセッサ接続」ボタン・グループから「シリアル・リンク」を選択すると、モデムを使用して、リモート PC サーバー・システム管理アダプター、Netfinity システム管理 PCI アダプター、または Netfinity システム管理プロセッサが使用するように構成されたモデムと直接接続できます。

- TCP/IP リンク

「システム管理プロセッサ接続」ボタン・グループから「TCP/IP リンク」を選択すると、TCP/IP ネットワーク接続を使用して、ユーザーのネットワークに接続された Netfinity システム管理 PCI アダプターに組み込まれている TCP/IP サブシステムに直接接続できます。

注: TCP/IP リンクは、Netfinity システム管理 PCI アダプターでしか使えません。

- インターコネクト・リンク

「システム管理プロセッサ接続」ボタン・グループから「インターコネクト・リンク」を選択すると、システム管理インターコネクト・ネットワーク上の Netfinity システム管理 PCI アダプターに接続されたシステム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスできます。システム管理インターコネクトには、追加の構成は必要ありません。システム管理インターコネクト機能を使用する場合は、40ページの『リモート・システムへのアクセス (システム管理インターコネクト・リンク)』で詳しい情報を参照してください。

3. 項目に名前を割り当てます。

「名前」フィールドに、個々のシステム管理アダプターまたはプロセッサ用に作成するダイナミック接続マネージャー項目の固有の名前を入力します。たとえば、これにはアダプターまたはプロセッサを導入するシステムのシステム名を使用すると便利ですが、「名前」項目は、説明のためだけなので、どのような名前でもかまいません。

4. リモート・システムのアクセス番号を入力します。

「番号」フィールドに、アクセスするシステム管理アダプターまたはプロセッサの電話番号（「システム管理プロセッサ接続」ボタン・グループで「シリアル・リンク」を選択したとき）または TCP/IP アドレス（「システム管理プロセッサ接続」ボタン・グループで「TCP/IP リンク」を選択したとき）を入力します。シリアル・リンクを構成する場合は、このアダプターまたはプロセッサに到達するために必要な市外局番とプレフィックスも必ず含めてください（たとえば、一部の電話システムでは、外線につながるのに 9 をダイヤルする必要があります）。

注: 電話番号には、括弧やダッシュを使わないでください。

5. COM ポートを割り当てます。

「使用する COM ポート」フィールドから、システム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスするのに使用するモデムまたはネットワーク・アダプターの COM ポートを選択します。

6. 「ポートのボー・レート」を指定します。

シリアル・リンクを構成する場合は、リモート・システムにアクセスするのに使用するモデムのボー・レートを指定します。

注:

- a. シリアル接続で頻繁に障害が起きるときは、ボー・レートを下げてください。ボー・レートが高くなるほど、回線ノイズに敏感になります。
- b. 最良のパフォーマンスを得るために、モデムの最高速度以上のボー・レートを選択してください。

7. リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサにログオンするためのユーザー ID を入力します。

リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサへのアクセスを許可する「ユーザー ID」を入力します。これは、システム管理アダプターまたはプロセッサへのアクセスを許可するために、システム管理サービスを使って構成されたユーザー ID / パスワードの組み合わせと一致していなければなりません。システム管理のユーザー ID / パスワードの組み合わせの構成方法については、4ページの『シリアル、TCP/IP、またはシステム管理インターコネクトを使用したリモート管理』を参照してください。

8. リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサにログオンするためのパスワードを入力します。

リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサへのアクセスを許可する「パスワード」を入力します。これは、システム管理アダプターまたはプロセッサへのアクセスを許可するために、システム管理サービスを使って構成されたユーザー ID / パスワードの組み合わせと一致していなければなりません。システム管理のユーザー ID / パスワードの組み合わせの構成方法については、4ページの『シリアル、TCP/IP、またはシステム管理インターコネクトを使用したリモート管理』を参照してください。

9. ヌル・モデム接続を使用して接続を確立する場合は、「ヌル・モデム」を選択します。

10. ダイナミック接続マネージャー項目を保管します。

「適用」を選択して、この項目を保管します。

リモート・システムへのアクセス (シリアル・リンクと TCP/IP リンク)

1 つまたは複数のダイナミック接続マネージャー項目が作成されると、リモート・システムのアクセスする準備が整ったことになります。

リモート・システムには「ダイナミック接続マネージャー」ウィンドウからアクセスします (34ページの図13 を参照)。リモート・システムにアクセスするには、次のようにします。

1. 「名前」フィールドから、アクセスしたいリモート・システムのダイナミック接続マネージャー項目を選択します。
2. 「開始」を選択して、シリアル接続プロセスを開始します。

ダイナミック接続マネージャー・プロセスが開始されると、システムは、モデムまたはネットワーク・アダプターを使用して、リモート・システムへの接続を試みます。リモート・システムに接続されると、ダイナミック接続マネージャーは、ユーザー ID / パスワードの組み合わせを使って、リモート・システムへのアクセスを試みます。接続に成功した場合は、リモート・システム・マネージャーを使用して、そのリモート・システムを追加 (または、検出) できます。その後は、ユーザーのネットワークの一部であるかのようにして、そのリモート・システムにリモートからアクセスし、管理できるようになります。

注:

1. システム管理プロセッサ接続を作成した場合は、システム管理サービスだけ使用できるようになります。リンクが確立されたら、「Netfinity サービス・マネージャー」ウィンドウの「システム管理」アイコンをダブルクリックして、システム管理サービスを開始します。
2. Netfinity マネージャー接続を確立するためには、リモート・システム自体が、ダイナミック接続マネージャーまたはシリアル接続制御サービスを自動応答モードで稼働していることが必要です。リモート・システムが自動応答モードになっていないと、ユーザーの電話呼び出しに対して、リモート・システムのモデムが応答しません。
3. Netfinity マネージャーを開始したときに、ダイナミック接続マネージャーが自動的に開始し、特定のリモート・システムへのアクセスを試みるようにしたいときは、そのリモート・システムの項目を選択し、「自動開始」チェックボックスを選択します。自動的に開始するように構成できるのは、1 つの項目だけです。

リモート・システムへのアクセス (システム管理インターコネクト・リンク)

シリアル接続や TCP/IP リンクとは異なり、システム管理インターコネクト・リンクの場合は、システム管理インターコネクト・リンク上の他のシステム管理アダプターやプロセッサに接続を試みる前に、追加の構成を行う必要はありません。システム管理インターコネクト・リンクを確立するには、次のようにします。

1. 「システム管理プロセッサ」チェックボックスにチェック・マークを付けます。
このチェックボックスにチェック・マークを付けると、「システム管理プロセッサ接続」ボタン・グループの選択項目が使用可能になります。
2. 「システム管理プロセッサ接続」ボタン・グループの「インターコネクト・リンク」をクリックします。
3. 「検索」ボタンをクリックして、「インターコネクトの検索」ウィンドウを開きます。

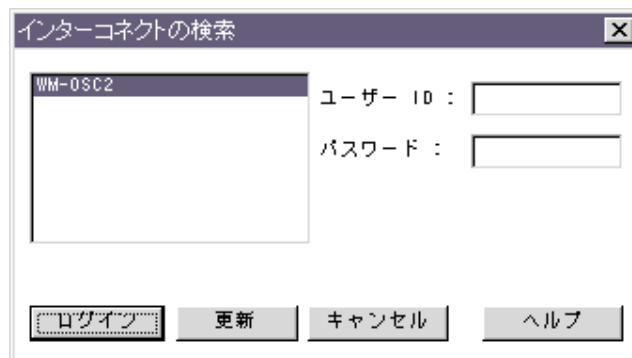


図 15. ダイナミック接続マネージャー - 「インターコネクトの検索」ウィンドウ

「インターコネクトの検索」ウィンドウには、システム管理インターコネクト・ネットワークに接続された、アクセス可能なシステム管理アダプターまたはプロセッサの全リストが表示されます。

4. 「インターコネクトの検索」ウィンドウに表示されたリストから、システム管理アダプターまたはプロセッサを選択します。
5. リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサにログオンするためのユーザー ID を入力します。

リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサへのアクセスを許可する「ユーザー ID」を入力します。これは、システム管理アダプターまたはプロセッサへのアクセスを許可するために、システム管理サービスを使って構成されたユーザー ID / パスワードの組み合わせと一致していなければなりません。システム管理のユーザー ID / パスワードの組み合わせの構成方法については、4ページの『シリアル、TCP/IP、またはシステム管理インターコネクトを使用したリモート管理』を参照してください。

6. リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサにログオンするためのパスワードを入力します。

リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサへのアクセスを許可する「パスワード」を入力します。これは、システム管理アダプターまたはプロセッサへのアクセスを許可するために、システム管理サービスを使って構成されたユーザー ID / パスワードの組み合わせと一致していなければなりません。システム管理のユーザー ID / パスワードの組み合わせの構成方法については、4ページの『シリアル、TCP/IP、またはシステム管理インターコネクトを使用したリモート管理』を参照してください。

7. 「ログイン」をクリックして、選択したシステム管理アダプターまたはプロセッサとのシステム管理インターコネクト・リンクを確立します。

システム管理インターコネクト・パススルー管理

ダイナミック接続マネージャーを使用すると、ユーザー自身のシステムや Netfinity システム管理 PCI アダプターが、ユーザーが管理したいシステムと同じシステム管理インターコネクト・ネットワークに接続されていなくても、システム管理インターコネクト・ネットワークに接続されたシステム管理アダプターやプロセッサを管理できます。パススルー・システム管理インターコネクト・リンクを確立するには、次のようにします。

1. リモート・システム管理インターコネクト・ネットワークに接続された Netfinity システム管理 PCI アダプターとのシリアル接続または TCP/IP リンクを構成し、確立します。

シリアル・リンクまたは TCP/IP リンクの構成と確立の方法については、38ページの『システム管理プロセッサ接続項目の作成』、および 39ページの『リモート・システムへのアクセス (シリアル・リンクと TCP/IP リンク)』を参照してください。

2. シリアル接続または TCP/IP リンクが確立されたら、「システム管理プロセッサ接続」ボタン・グループの「インターコネクト・リンク」をクリックし、次に「検索」をクリックします。「インターコネクトの検索」ウィンドウが開き、ユーザーがシリアル接続または TCP/IP リンクを使って接続したリモート Netfinity システム管理 PCI アダプターが接続されているシステム管理インターコネクト・ネットワークに接続されたシステム管理アダプターおよびプロセッサの全リストが表示されます。システム管理インターコネクト・ネットワーク上のユーザー自身のシステムに接続されているかのようにして、これらのシステムの任意のものを選択し、ログインします。

初期化文字列に関するガイドライン

ほとんどのモデムは類似の初期化文字列コードを共有していますが、モデムごとに相違があります。そのため、すべてのモデムに該当する初期化文字列を提供するのは、たいへん難しいことです。場合によっては、ご使用のモデムに独自の初期化文字列を作成することが必要になります。その場合は、モデムに付属のマニュアルで、適切な初期化文字列コードを調べてください。

- 必要な初期化コード

Netfinity マネージャーのダイナミック接続マネージャー・サービスを使用したときにモデムが正しく動作するためには、モデムの初期化文字列を、次のように構成する必要があります。

- コマンド・エコーを OFF
- オンライン文字エコーを OFF
- 結果コードを使用
- 単語形式結果コードを使用
- BUSY と DT の検出時に、すべてのコードと Connect メッセージを含める
- プロトコル ID の追加 - LAPM/MNP/NONE V42bis/MNP5
- 標準 CD 操作
- DTR ON-OFF でハンガアップし、AA を使用不可にし、コマンド・モードに戻る
- CTS ハードウェア・フロー制御
- コンピューターに対する受信データの RTS 制御
- キューイングありの非破壊 BREAK 信号、エスケープ状態なし
- 自動応答オフ

例：正常に動作するために必要な設定だけを使用した U.S. Robotics Sportster モデムの初期化文字列は、次のようになります。

```
E0F1Q0V1X4&A3&C1&D2&H1&R2&Y3
```

- 追加の初期化コード

必須の初期化コードに加えて、以下の追加設定をモデムに構成すると、Netfinity マネージャーのダイナミック接続マネージャー・サービスの操作を最適化できます。

- キャリア検出までスピーカー ON
- ソフトウェア・フロー制御使用不可
- 自動エラー制御
- 可変データ速度

例：必須の設定と追加の設定をすべて使用した U.S. Robotics Sportster モデムの初期化文字列は、次のようになります。

```
E0F1M1Q0V1X4&A3&C1&D2&H1&I0&K1&M4&N0&R2&Y3
```


Netfinity マネージャーを使わない Netfinity システム管理 PCI アダプターへのアクセス

この章では、Netfinity マネージャーを使わずに Netfinity システム管理 PCI アダプターを使用する方法について説明します。

Netfinity システム管理 PCI アダプターにアクセスし、管理するのに Netfinity マネージャーを使えない場合は、端末プログラムとモデムを使って、直接 Netfinity システム管理 PCI アダプターに接続できます。ヌル・モデム接続も使用できます。Netfinity システム管理 PCI アダプターのモデムの構成については、13ページの『モデム設定』、および 15ページの『システム管理ポートの参照表』を参照してください。

また、Netfinity システム管理 PCI アダプターが TCP/IP ネットワークに接続され、これを使用するように構成されている場合は（イーサネットまたはトークンリング接続を使用）、TELNET セッションまたは Web ブラウザーを使って Netfinity システム管理 PCI アダプターに接続することもできます。Netfinity システム管理 PCI アダプターのネットワーク機能の構成については、18ページの『ネットワーク設定』を参照してください。

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ（または、共用モデム・リソース）としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

接続すると、モニター、構成、エラー・ログなど、さまざまなデータにアクセスできます。また、次のことも行えます。

- リモート・システムの電源をオン、オフにする
- サーバーを遮断および再始動する
- Netfinity システム管理 PCI アダプター上のリモート・ビデオ・モードを開始する

リモート・ビデオ・モードを使用すると、POST 中に生成されるテキスト出力を、すべてリモートからモニターでします。リモート・システムが POST を完了すると、すべての POST データが「端末プログラム」ウィンドウに表示されます。リモート・システムの POST をモニターしている間は、ローカル・キーストロークはすべてリモート・システムに自動的に中継されるので、POST 中にアクセスできる POST ユーティリティー（システム構成、独立したディスクの RAID ミニ構成プログラム、診断プログラムなど）を使用できます。

注: Web ブラウザー・インターフェースを使用しているときは、リモート・ビデオ・モードはサポートされません。

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

Netfinity システム管理 PCI アダプターへの直接接続の確立

Netfinity システム管理 PCI アダプターへの直接接続は、3 通りの方法で行えます。

- シリアル接続と端末プログラムを使って接続する
- TCP/IP ネットワーク接続と TELNET セッションを使って接続する
- TCP/IP ネットワーク接続と Web ブラウザーを使って接続する

端末プログラムによる接続

端末プログラムを使って Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続を確立するには、次の手順で行います。

1. 端末プログラムを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターのモデムとの接続を確立します。

使用するモデムの設定は、次のとおりです。

ボー	57.6 k
データ・ビット	8
パリティ	なし
ストップ・ビット	1
フロー制御	ハードウェア

2. Netfinity システム管理 PCI アダプターにダイヤルします。
3. Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインします。

Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続を確立すると、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。Netfinity システム管理 PCI アダプターを使用するために以前に構成したユーザー名とパスワードの組み合わせを入力しなければなりません。

ユーザー名とパスワードの 2 種類の組み合わせのどちらかを使用できます。

- デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD)

注: デフォルトのユーザー名とパスワードは、大文字小文字の区別をします。すべて大文字を使用しなければなりません。また、PASSWORD の “0” は数字のゼロです。

- システム管理サービスと Netfinity マネージャーを使って定義したユーザー名とパスワード

重要

安全保護のため、システム管理サービスを使用して、ユーザー名とパスワードを変更してください。詳しくは、6ページの『構成の設定』を参照してください。

ログインすると、Netfinity システム管理 PCI アダプターのメニュー・システムが表示されます。詳しくは、48ページの『Netfinity システム管理 PCI アダプターのメニュー』を参照してください。

TELNET セッションによる接続

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

TELNET セッションを使って Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続を確立するには、次の手順で行います。

1. TELNET クライアントが VT100 エミュレーション用に構成され、VT100 矢印キーが使用可能になっていることを確認します。TELNET クライアントが正しく構成されていないと、ある種のキーが正しく機能しません。
2. Netfinity システム管理 PCI アダプターに割り当てられた TCP/IP アドレスまたはホスト名に TELNET 接続します。

Netfinity システム管理 PCI アダプターのネットワーク機能の構成については、18ページの『ネットワーク設定』を参照してください。

3. Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインします。

Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続を確立すると、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。Netfinity システム管理 PCI アダプターを使用するために以前に構成したユーザー名とパスワードの組み合わせを入力しなければなりません。

ユーザー名とパスワードの 2 種類の組み合わせのどちらかを使用できます。

- デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD)

注: デフォルトのユーザー名とパスワードは、大文字小文字の区別をします。すべて大文字を使用しなければなりません。また、PASSWORD の “0” は数字のゼロです。

- システム管理サービスと Netfinity マネージャーを使って定義したユーザー名とパスワード

重要

安全保護のため、システム管理サービスを使用して、ユーザー名とパスワードを変更してください。詳しくは、6ページの『構成の設定』を参照してください。

ログインすると、Netfinity システム管理 PCI アダプターのメニュー・システムが表示されます。詳しくは、48ページの『Netfinity システム管理 PCI アダプターのメニュー』を参照してください。

Web ブラウザーによる接続

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

Web ブラウザーを使った Netfinity システム管理 PCI アダプターへの接続は、次の Web ブラウザーのどちらかを使用している場合にだけサポートされます。

- Microsoft Internet Explorer 4.01 (SP1 付き) 以降
- Netscape Communicator 4.04 以降

これ以外の Web ブラウザーを使つての接続はサポートされておらず、予期しない結果が生じる可能性があります。

Web ブラウザーを使用して Netfinity システム管理 PCI アダプターとのセッションを確立するには、次の手順で行います。

1. Web ブラウザーの「ロケーションまたは URL アドレス」フィールドに、Netfinity システム管理 PCI アダプターに割り当てた TCP/IP アドレスまたはホスト名を入力します。

Netfinity システム管理 PCI アダプターのネットワーク機能の構成については、18ページの『ネットワーク設定』を参照してください。

2. Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインします。

Netfinity システム管理 PCI アダプターとのセッションを確立すると、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。Netfinity システム管理 PCI アダプターを使用するために以前に構成したユーザー名とパスワードの組み合わせを入力しなければなりません。

ユーザー名とパスワードの 2 種類の組み合わせのどちらかを使用できます。

- デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD)

注: デフォルトのユーザー名とパスワードは、大文字小文字の区別をします。すべて大文字を使用しなければなりません。また、PASSWORD の“0”は数字のゼロです。

- システム管理サービスと Netfinity マネージャーを使って定義したユーザー名とパスワード

重要

安全保護のため、システム管理サービスを使用して、ユーザー名とパスワードを変更してください。詳しくは、6ページの『構成の設定』を参照してください。

ログインすると、タイムアウト期間を 5 ~ 20 分の範囲で指定するように求められます。タイムアウト値を入力して「Continue」を押します。Netfinity システム管理 PCI アダプター

のメニュー・システムが表示されます。詳しくは、48ページの『Netfinity システム管理 PCI アダプターのメニュー』を参照してください。

Netfinity システム管理 PCI アダプターのメニュー

Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインすると、次のメインメニューが表示されま
す。

```
Local System system name

2 Monitors
3 Error Logs
4 Service Processor Configuration
5 System Services
6 System Power
7 Boot
B Remote Terminal Status
R Remote SP Access
Y Disconnect Current Logon
Z Start Remote Video
```

メニュー項目にアクセスするには、アクセスしたい情報に対応する番号または文字を押しま
す (Web ブラウザーを使って Netfinity システム管理 PCI アダプターにアクセスしていると
きは、アクセスしたい情報に対応するメニュー選択項目をクリックします)。メニュー項目を
選択すると、メインメニューで選択した項目に関連した詳細な情報を提供する後続のメニ
ューが表示されます。メインメニューに戻るときは、「Esc」キーを押します。直前に表示され
たメニューに戻るときは、「Backspace」キーを押します。

注: Web ブラウザーを使って Netfinity システム管理 PCI アダプターにアクセスしている
場合、メインメニューに戻るときは「Main Menu」ボタンをクリックし、直前のメニ
ューに戻るときは「Previous Menu」ボタンをクリックします。

注

- 「Y Disconnect Current Logon」を選択すると、現行のセッションを終了します。
作業を続けるためには、新たにユーザー名とパスワードを入力する必要があります。
- 「Read」を選択すると、最後の項目を表示します。
- 「Read Next」を選択すると、項目を逆方向に 1 つずつ進みます。
- 「Write」を選択すると、コマンドを実行します。

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場
合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理
PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) として
の働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理
プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネッ
トワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

メニューの選択項目	表示可能なデータ
Monitors	システム・ボードの温度、マイクロプロセッサの温度、電圧の数値、電圧レギュレーター・モジュールの数値、ファイルの状況
Error Logs	システム・エラー・ログの内容
Service Processor Configuration	Netfinity システム管理 PCI アダプターのモデム構成、ダイヤルアウト項目、ダイヤルアウト・アラート、ダイヤルイン・ログイン、システム状況、しきい値、システム統計、重要プロダクト・データ (VPD) 情報、システム状態
System Services	Netfinity システム管理 PCI アダプターのウォッチドッグ・タイマーの状況、ホスト・システムに送信されたイベント・アラート
System Power	現在のシステム電源の状況、電源オフ構成、電源オフ遅延値 注: 「 System Power 」メニューの選択項目を使用して、システムの電源をオン、オフにできます。詳しくは、49ページの『「System Power」メニューの選択項目』を参照してください。
Boot	「 Boot 」メニューの選択項目を使用して、システムの遮断や再始動、Netfinity システム管理 PCI アダプターの再始動などを行えます。詳しくは、51ページの『「Boot」メニューの選択項目』を参照してください。
Remote Terminal Status	現在のリモート端末の状況
Remote SP Access	システム管理インターコネクト・ネットワークを使用して、リモート・システムに接続します。
Disconnect Current Logon	現在の接続またはセッションを終了します。
Start Remote Video	「 Start Remote Video 」を使用すると、POST 中に、端末プログラムがリモートでサーバーをモニターし、管理できるようになります。詳しくは、54ページの『リモート・ビデオ・モードによる POST のモニターとアクセス』を参照してください。

端末プログラムによる Netfinity システム管理 PCI アダプターへのアクセスが終了したら、「現在のログオンの切断」を選択し、端末プログラムを使って、Netfinity システム管理 PCI アダプターへの接続をクローズします。

「System Power」メニューの選択項目

「System Power」メニューの選択項目を使用すると、次のことを行えます。

- サーバーの現在の電源状況に関するデータを表示する
- サーバーの電源構成に関するデータを表示する
- サーバーの電源をオフにする
- サーバーの電源をオンにする

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

これらの機能にアクセスするには、次のようにします。

1. 端末プログラム、TELNET セッション、または Web ブラウザーを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続を確立します。
2. Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインします。

Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続を確立すると、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。Netfinity システム管理 PCI アダプターを使用するために以前に構成したユーザー名とパスワードの組み合わせを入力しなければなりません。ユーザー名とパスワードの 2 種類の組み合わせのどちらかを使用できます。

- デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD)

注: デフォルトのユーザー名とパスワードは、大文字小文字の区別をします。すべて大文字を使用しなければなりません。また、PASSWORD の “0” は数字のゼロです。

- システム管理サービスと Netfinity マネージャーを使って定義したユーザー名とパスワード

重要

安全保護のため、システム管理サービスを使用して、ユーザー名とパスワードを変更してください。詳しくは、6ページの『構成の設定』を参照してください。

Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインすると、次のメインメニューが表示されます。

```
Local System system name

2 Monitors
3 Error Logs
4 Service Processor Configuration
5 System Services
6 System Power
7 Boot
B Remote Terminal Status
R Remote SP Access
Y Disconnect Current Logon
Z Start Remote Video
```

3. 「**6 System Power**」を選択します。

次の「System Power」メニューが表示されます。

```
1 Current Power Status
2 Power Configuration
3 Power On
4 Power Off
```

4. 「System Power」メニューの項目を選択します。

- 「**1 Current Power Status**」は、サーバーの現在の電源の状況に関する情報を表示するときに選択します。
- 「**2 Power Configuration**」は、サーバーの電源構成に関する情報を表示するときに選択します。
- 「**3 Power On**」は、サーバーの電源をオンするときに選択します (現在、電源がオフになっている場合)。
- 「**4 Power Off**」は、サーバーの電源をオフにするときに選択します (現在、電源がオンになっている場合)。

「Boot」メニューの選択項目

「Boot」メニューの選択項目を使用すると、次のことを行えます。

- サーバーのオペレーティング・システムを遮断し、サーバーを再始動する
- 最初にオペレーティング・システムを遮断せずに、ただちにサーバーを再始動する
- Netfinity システム管理 PCI アダプターを再始動する

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

これらの機能にアクセスするには、次のようにします。

1. 端末プログラム、TELNET セッション、または Web ブラウザーを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続を確立します。
2. Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインします。

Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続を確立すると、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。Netfinity システム管理 PCI アダプターを使用するために以前に構成したユーザー名とパスワードの組み合わせを入力しなければなりません。ユーザー名とパスワードの 2 種類の組み合わせのどちらかを使用できます。

- デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD)

注: デフォルトのユーザー名とパスワードは、大文字小文字の区別をします。すべて大文字を使用しなければなりません。また、PASSWORD の “0” は数字のゼロです。

- システム管理サービスと Netfinity マネージャーを使って定義したユーザー名とパスワード

重要

安全保護のため、システム管理サービスを使用して、ユーザー名とパスワードを変更してください。詳しくは、6ページの『構成の設定』を参照してください。

Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインすると、次のメインメニューが表示されます。

```
Local System system name

2 Monitors
3 Error Logs
4 Service Processor Configuration
5 System Services
6 System Power
7 Boot
B Remote Terminal Status
R Remote SP Access
Y Disconnect Current Logon
Z Start Remote Video
```

3. 「7 **Boot**」を選択します。

次の「Boot」メニューが表示されます。

- 1 Reboot w/OS shutdown
- 2 Reboot immediately
- 4 Restart SP

4. 「Boot」メニューの項目を選択します。

- 「1 Reboot w/OS Shutdown」は、サーバーのオペレーティング・システムを遮断してから、サーバーを再始動するときに選択します。
- 「2 Reboot immediately」は、オペレーティング・システムを遮断せずに、ただちにサーバーを再始動するときに選択します。
- 「4 Restart SP」は、Netfinity システム管理 PCI アダプターを再始動するときに選択します。

「Remote SP Access」メニューの選択項目

「Remote SP Access」メニューの選択項目を使用すると、システム管理インターコネクト・ネットワーク内の他のシステム管理 PCI アダプターまたはプロセッサと接続できます。

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ (または、共用モデム・リソース) としての働きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

これらの機能にアクセスするには、次のようにします。

1. 端末プログラム、TELNET セッション、または Web ブラウザーを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続を確立します。
2. Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインします。

Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続を確立すると、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。Netfinity システム管理 PCI アダプターを使用するために以前に構成したユーザー名とパスワードの組み合わせを入力しなければなりません。ユーザー名とパスワードの 2 種類の組み合わせのどちらかを使用できます。

- デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD)

注: デフォルトのユーザー名とパスワードは、大文字小文字の区別をします。すべて大文字を使用しなければなりません。また、PASSWORD の “0” は数字のゼロです。

- システム管理サービスと Netfinity マネージャーを使って定義したユーザー名とパスワード

重要

安全保護のため、システム管理サービスを使用して、ユーザー名とパスワードを変更してください。詳しくは、6ページの『構成の設定』を参照してください。

Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインすると、次のメインメニューが表示されます。

```
Local System system name

2 Monitors
3 Error Logs
4 Service Processor Configuration
5 System Services
6 System Power
7 Boot
B Remote Terminal Status
R Remote SP Access
Y Disconnect Current Logon
Z Start Remote Video
```

3. 「**R Remote SP Access**」を選択します。

システム管理インターコネクト・ネットワークに接続されたすべてのシステムの名前のリストが表示されます。リスト内のシステムとシステム管理インターコネクト・リンクを確認するには、そのシステムの名前の前に表示されている番号を押します。

4. 選択したシステム上のシステム管理 PCI アダプターまたはプロセッサにログインします。

ユーザー名とパスワードの入力を求められます。Netfinity システム管理 PCI アダプターまたはプロセッサを使用するために以前に構成したユーザー名とパスワードの組み合わせを入力しなければなりません。ログインすると、Netfinity システム管理 PCI アダプターのメニュー・システムが表示されます。ただし、テキスト「Local System」は、「Remote System」とシステム名(システム管理インターコネクト・リンクを使ってアクセスするシステムの)で置き換えられています。詳しくは、48ページの『Netfinity システム管理 PCI アダプターのメニュー』を参照してください。

リモート・ビデオ・モードによる POST のモニターとアクセス

端末プログラムまたは TELNET セッションを使用して、POST 中に生成されるテキスト出力を、すべてリモートからモニターできます。リモート・システムが POST を完了すると、すべての POST データが「端末プログラム」ウィンドウに表示されます。リモート・システムの POST をモニターしている間は、ローカル・キーストロークはすべてリモート・システムに自動的に中継されるので、POST 中にアクセスできる POST ユーティリティ(システム構成、RAID ミニ構成プログラム、診断プログラムなど)を使用できます。

注: Web ブラウザーを使用するリモート・ビデオ・モードは、サポートされません。

重要!

システムにシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターの両方がある場合、システム管理プロセッサがすべてのシステム管理データを生成し、システム管理 PCI アダプターはネットワーク・ゲートウェイ(または、共用モデム・リソース)としての動きだけします。この構成におけるシステム管理 PCI アダプターおよびシステム管理プロセッサの構成方法については、2ページの『システム管理 PCI アダプターのネットワーク・ゲートウェイとしての使用』を参照してください。

リモート・ビデオ・モードを使用して、サーバー上の POST をモニターし、アクセスするには、次のようにします。

1. 端末プログラム、TELNET セッション、または Web ブラウザーを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続を確立します。
2. Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインします。

Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続を確立すると、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。Netfinity システム管理 PCI アダプターを使用するために以前に構成したユーザー名とパスワードの組み合わせを入力しなければなりません。ユーザー名とパスワードの 2 種類の組み合わせのどちらかを使用できます。

- デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD)

注: デフォルトのユーザー名とパスワードは、大文字小文字の区別をします。すべて大文字を使用しなければなりません。また、PASSWORD の “0” は数字のゼロです。

- システム管理サービスと Netfinity マネージャーを使って定義したユーザー名とパスワード

重要

安全保護のため、システム管理サービスを使用して、ユーザー名とパスワードを変更してください。詳しくは、6ページの『構成の設定』を参照してください。

Netfinity システム管理 PCI アダプターにログインすると、次のメインメニューが表示されます。

2 Monitors
3 Error Logs
4 Service Processor Configuration
5 System Services
6 System Power
7 Boot
B Remote Terminal Status
R Remote SP Access
Y Disconnect Current Logon
Z Start Remote Video

3. サーバーを始動 (または、再始動) します。
 - 現在リモート・サーバーの電源がオフの場合は、次のようにします。
 - a. メインメニューから「**6 System Power**」を選択します。
 - b. 「System Power」メニューから「**4 Power On**」を選択します。
 - 現在サーバーの電源がオンになっている場合は、サーバーを再始動する必要があります。「System Power」メニューや「Boot」メニューの選択項目を使ってサーバーを再始動するには、いくつかの方法があります。

「System Power」メニューの選択項目を使ってサーバーを再始動するときは、次のようにします。

 - a. メインメニューから「**6 System Power**」を選択します。
 - b. 「System Power」メニューから「**3 Power Off**」を選択します。

- c. サーバーの電源がオフになったら、「**4 Power On**」を選択して、サーバーの電源をオンに戻します。

「Boot」メニューの選択項目を使ってサーバーを再始動するときは、次のようになります。

- a. メインメニューから「**7 Boot**」を選択します。
- b. 「**1 Reboot w/OS Shutdown**」または「**2 Reboot Immediately**」を選択して、サーバーを再始動します。

注: 「System Power」メニューおよび「Boot」メニューについて詳しくは、49ページの『「System Power」メニューの選択項目』、および 51ページの『「Boot」メニューの選択項目』を参照してください。

4. サーバーを再始動した後、メインメニューに戻って「**Z Start Remote Video**」を選択します。

Netfinity システム管理 PCI アダプター上でリモート・ビデオ・モードを開始すると、POST中に生成されるテキスト出力が、すべて端末のウィンドウや TELNET セッションに送られます。端末や TELNET セッションは、完全にアクティブなリモート・セッションとしても働くので、キーボード・コマンドを入力してリモート・サーバーに送ることができます。これにより、キー・コマンドやキーの組み合わせを入力して、システム・セットアップ、RAID ミニ構成プログラムなどの POST 操作やユーティリティーにアクセスすることが可能になります。

リモート・ビデオ・モードの使用が終了したら、「**Ctrl+R**」、「**Ctrl+E**」、「**Ctrl+T**」の順に押します。これでビデオ・モードが終了し、メインメニューに戻ります。

Netfinity マネージャーを使わない Netfinity システム管理 PCI アダプターの構成

このオプションには、Netfinity マネージャーを使用せずに、システム管理 PCI アダプター上のさまざまな機能を構成できる、SPUTIL.EXE と呼ばれる DOS ベースのシステム管理構成ユーティリティーが含まれています。このユーティリティーは、ご使用のオプションに付属のシステム管理 CD-ROM に入っています。このユーティリティーの詳細については、この CD 上の README.TXT ファイルをご覧ください。

付録A. 特記事項および商標

特記事項

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのようなIBM製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBMライセンス・プログラムまたは他のIBM製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBMおよび他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目2-31
AP事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

商標

次の用語は、米国およびその他の国における IBM 社の商標です。

IBM

OS/2

Netfinity

Microsoft、Windows、Windows NT は、Microsoft Corporationの商標または登録商標です。

他の会社名、製品名、サービス名は、他社の商標またはサービス・マークです。

索引

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

〔ア行〕

- アクセス、リモート・システムへの 36
- アクセス、リモート・ビデオ・モードを使った POST への 54
- アクセス、Netfinity マネージャーを使わない 43
- アクセス、TELNET セッションによる 45
- アクセス、Web ブラウザーによる 47
- 「アラート使用可能」グループ 22
- 「イベント・ログ」ウィンドウ 26

〔カ行〕

- ガイドライン、初期化文字列に関する 17
- 「稼働パラメーター」ウィンドウ 27
- 管理、リモート Netfinity システム管理 PCI アダプターの 4
- 管理ポート C 13, 16, 43
- 「クリティカル」グループ、「アラート使用可能」の 23
- 構成 2
- 構成、自動ダイヤルアウト機能の 20
- 構成、ネットワーク設定の 18
- 構成、Netfinity マネージャーを使わない Netfinity システム管理 PCI アダプター 57
- 構成、SNMP 設定の 25
- 構成情報 3, 6
- 構成設定機能 12
- 「構成の設定」ウィンドウ 6
- 構成ユーティリティ 57

〔サ行〕

- 作成、ダイナミック接続マネージャー項目の 36
- 作成、リモート・アラート設定の 21
- 「システム」グループ、「アラート使用可能」の 24
- システム管理
 - 「アラート使用可能」グループ 22
 - 「アラート使用可能」の「クリティカル」グループ 23
 - 「アラート使用可能」の「非クリティカル」グループ 23
- アラートの転送 24
- 「イベント・ログ」ウィンドウ 26
- 「稼働パラメーター」ウィンドウ 27
- 構成 2
- 構成情報 3, 6
- 「構成の設定」ウィンドウ 6
- システム管理インターコネクトの使用 4
- 「システム管理プロセッサ・クロック」グループ 9

システム管理（続き）

- 「システム識別」グループ 7
- 「システム電源制御」ウィンドウ 28
- 始動 3
- 使用 2
- シリアル接続の使用 4
- 説明 1
- ダイヤルアウト項目の設定 18
- 「ダイヤルインの設定」グループ 8
- 「ダイヤル設定」グループ 16
- 電源オフ遅延 12
- ネットワーク設定 2
- 「ネットワーク設定」ウィンドウ 18
- ポートの参照表 15
- マイクロコードの更新 4
- 「モデム設定」ウィンドウ 13
- リモート POST 30
- 「リモート・アラート設定」ウィンドウ 20
- 「リモート・アラート設定情報」グループ 21
- ローダー・タイムアウト 10
- O/S タイムアウト 11
- POST タイムアウト 10
- 「SNMP 設定」ウィンドウ 25
- TCP/IP 接続の使用 4
- システム管理インターコネクト、リモート Netfinity システム管理 PCI アダプターへの
 - システム管理の使用 2
 - 「システム管理プロセッサ・クロック」グループ 9
 - 「システム識別」グループ 7
 - 「システム電源制御」ウィンドウ 28
- 事前障害分析 (PFA) 25
- 始動、システム管理の 3
- 重要プロダクト・データ (VPD) 49
- 使用、アダプターをネットワーク・ゲートウェイとして 2
- 使用、システム管理インターコネクトの 4
- 使用、シリアル接続の 4
- 使用、TCP/IP 接続の 4
- 初期化文字列に関するガイドライン 17, 42
- シリアル管理 35, 36, 39
- シリアル接続、リモート Netfinity システム管理 PCI アダプターへの 4
- シリアル・ポート A 13, 16, 43
- 接続、Netfinity システム管理 PCI アダプターへの 44
- 切断、Netfinity システム管理 PCI アダプター・セッションからの 49
- 選択、ポートの 15

〔タ行〕

ダイナミック接続マネージャー

初期化文字列に関するガイドライン 42

説明 33

ダイナミック接続マネージャー項目の作成 37, 38

モデムの構成 34

リモート・アクセスの 36, 39, 40

リモート・アクセスの使用可能化 35

リモート・システムへのアクセス 36

リモート・システムへのアクセス (システム管理インターコ
ネクト・リンク) 40

リモート・システムへのアクセス (シリアル・リンクと
TCP/IP リンク) 39

タイムアウト、O/S 11

タイムアウト、ローダー 10

タイムアウト、POST 10

ダイヤルアウト項目の設定 18

「ダイヤルインの設定」グループ 8

「ダイヤル設定」グループ 16

端末プログラム 43, 44

デバイス・ドライバ情報 3, 6

デフォルトのユーザー名とパスワード 44, 45, 47

電圧要件 23, 24, 27

電圧レギュレーター・モジュール (VRM) 23, 27

電源オフ遅延 12

転送、アラートの 24

〔ナ行〕

ネットワーク設定 2

「ネットワーク設定」ウィンドウ 18

〔ハ行〕

バススレー管理 41

「非クリティカル」グループ、「アラート使用可能」の 23

ビデオ・モード、リモート 44, 49, 54

複数のダイヤルアウト 20

ポート、システム管理 PCI アダプターが利用可能な 15

ポート、システム管理プロセッサが利用可能な 15

ポート、システム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダ
プターが利用可能な 15

「ポート構成」グループ 13

ポートの参照表 15

ポート・ポー・レート 6

〔マ行〕

マイクロコード情報 3, 6

メインメニュー 48

モデム 43

「モデム設定」ウィンドウ 13

モデムの構成 34

モニターしている電圧 23, 24

〔ヤ行〕

ユーザー名 44, 45, 47

〔ラ行〕

リモート POST 30

リモート機能 43

リモート端末の状況 49

リモート・アラート設定 20

「リモート・アラート設定情報」グループ 21

リモート・ビデオ・モード 44, 49, 54

ローダー・タイムアウト 10

ログイン、Netfinity システム管理 PCI アダプターへの 44,
45, 47

B

「Boot」メニュー 51

C

COS 構成ユーティリティ 57

N

Netfinity システム管理 PCI アダプターのメニュー 48

O

O/S タイムアウト 11

P

POST タイムアウト 10

R

Remote SP Access 49

「Remote SP Access」メニュー 53

S

「SNMP 設定」ウィンドウ 25

「System Power」メニュー 49

T

TCP/IP 接続、リモート Netfinity システム管理 PCI アダプタ
への 4
TELNET セッション 45

W

Web ブラウザー・セッション 47



部品番号: 46L3444

Printed in Japan



46L3444